

前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）



前橋市教育委員会

目 次

第 1 章	前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）の概要	1
1	目 的	
2	期 間	
3	計画の対象	
4	計画の位置づけ	
第 2 章	計画策定の背景	2
1	前橋市の取り組み	
2	国・県の動向	
3	経年変化で見る子ども読書の現状	
第 3 章	第三次延長計画のこれまでの取り組み	5
1	家庭における読書活動の取り組み	
2	学校等における読書活動の取り組み	
3	図書館における読書活動の取り組み	
4	地域における読書活動の取り組み	
第 4 章	前橋市における子ども読書活動の現状と課題	7
1	第四次計画策定に向けてのアンケートの実施	
2	アンケート結果を受けての課題	
第 5 章	第四次計画の基本的な考え方	9
1	基本理念	
2	目 標	
3	計画の 4 つの活動方針	
第 6 章	第四次計画における具体的な取り組み	11
1	4 つの活動方針とその具体的な取り組み	
	【方針 1】発達段階に応じた読書習慣の定着	
	【方針 2】学校図書館・公共図書館の一層の活用	
	【方針 3】デジタル社会に対応した読書環境の整備	
	【方針 4】社会全体で読書活動推進に取り組むための連携及び周知啓発	
資 料 編		19
1	前橋市子ども読書活動アンケート調査結果	
2	前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）策定委員会 委員名簿	

前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）

「前橋市子ども読書活動推進計画」は、概ね 18 歳以下の子どもの読書環境の整備や、家庭、学校、地域、図書館等が連携しながら、読書活動の推進に努めるために必要な施策を示すものです。

「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次延長計画）」における成果や課題、諸情勢の変化等を検証した上で、引き続き子どもの読書活動の推進を実践していくために、現行計画を改定し、「前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）」（以下「第四次計画」という）を策定いたします。

第 1 章 前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）の概要

1 目 的

子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、子ども読書活動の更なる推進を図るため、「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次延長計画）」における取り組みや成果等を検証して、第四次計画を策定いたします。

未来を担う子どもたちが、本と出会い、本を通して人と出会い、一人一人が感性を磨き、心豊かな人間性を育むために、自主的に読書活動ができる環境を整え、読書の楽しさや大切さを伝え、多様な人と協働しながら主体的・創造的に社会を創る人の育成を目指します。

2 期 間

令和 7（2025）年度から 11（2029）年度までの 5 年間

3 計画の対象

概ね 18 歳以下の子ども

4 計画の位置づけ

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成 13 年 12 月 12 日法律第 154 号）第 9 条第 2 項（努力義務）に基づき策定します。また、「前橋市教育の大綱」の実現に向けて取り組むための「第 3 期前橋市教育振興基本計画」にも位置づけられています。

本計画の策定に向けて、学識、ボランティア、学校司書等で構成された計画策定委員及び保健師、保育士、教育・福祉関係の市職員で構成された実務部会で前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）策定委員会を設置し、子ども読書活動を推進するための目標や具体的な取り組みについて検討を行いました。

第2章 計画策定の背景

1 前橋市の取り組み

(1) 教育におけるデジタル化の推進

学校では令和2(2020)年度に、児童生徒への学習用端末配付と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する国のGIGAスクール構想により、ICTを活用して子どもたちの学びを支える環境が整備されました。

(2) コロナ禍の影響

GIGAスクール構想の推進と時を同じくして、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い学校や図書館が休校・休館を余儀なくされる事態となりました。市民ボランティアによる学校や公民館での読み聞かせは休止となり、前橋こども図書館の令和2年度来館者数は48,782人と、令和元(2019)年度115,191人と比較して約58%減少するなど、子どもたちの読書環境に大きな影響を及ぼしました。

市立図書館では、令和5(2023)年3月に電子書籍サービスを導入し、図書館に足を運ばなくても約32,000タイトルの書籍を借りたり閲覧できたりするようになりました。

3年余の時を経て“with コロナ”に切り替わり、学校や地域でのおはなし会が再開され、令和5年度以降は制限することなく開催でき、イベントへの参加者もコロナ禍以前の人数に回復しています。

(3) 第三次計画の期間延長

令和5年度に「前橋市立図書館新本館基本構想・基本計画」が策定され、図書館新本館が中心市街地へ移転することに伴い、前橋こども図書館の移転統合が決定されました。図書館新本館基本構想・基本計画には、建設予定地に近接している群馬県立図書館との機能連携が掲げられているため、群馬県読書活動推進計画と計画期間をあわせることとし、「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）」（計画期間：令和元年度～5年度の5年間）を1年間延長し、令和6(2024)年度までの「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次延長計画）」としました。

第三次延長計画では、3年余りに及ぶコロナ禍を経ての状況変化を踏まえて「子ども読書活動推進のための方策」について時点修正を行いました。

2 国・県の動向

(1) 国の計画

国は、令和5年3月に「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（計画期間：令和5年度～9年度の5年間）」を策定しました。

急激に変化する時代において必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像

力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、すべての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、社会全体で子どもの読書活動を推進するとの基本方針のもと、次の4点を念頭におき施策を進めています。

【基本的方針】

- ア 不読率の低減
- イ 多様な子どもたちの読書機会の確保
- ウ デジタル社会に対応した読書環境の整備
- エ 子どもの視点に立った読書活動の推進

(2) 群馬県の計画

群馬県は、令和2(2020)年3月に策定した「群馬県読書活動推進計画(計画期間：令和2年度～6年度の5年間)」により各種施策を推進しています。

なお、群馬県の計画は各種法令等に基づく4つの計画を内包しており、県民全体を対象としています。

- ア 第4次群馬県子ども読書活動推進計画
- イ 視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律(通称：読書バリアフリー法)に基づく県計画
- ウ 群馬県民の読書活動の推進に関する条例を踏まえた計画
- エ 群馬県教育振興基本計画の個別基本計画

このうち、イの読書バリアフリー法に基づく計画は、令和4(2022)年3月の改定で追加されました。

群馬県では、生涯を通じて学ぶ・楽しむ・考える「読書」の推進を基本目標に2つの基本方針を掲げています。1つは、読書習慣を形成するために、乳幼児期から家庭、学校、地域等が連携し、継続した支援を行う、2つは、県民が生涯にわたり読書に親しむために読書環境を整備するとなっています。

なお、県の基本目標にある「読書」には、活字の本のみならず電子書籍等多彩な媒体による読書が含まれています。



3 経年変化で見る子ども読書の現状

質問：読書は好きですか（当てはまる、どちらかと言えば当てはまる）

小学6年生		令和元年度	令和5年度
	前橋市	78.5%	77.5%
	全国（公立）	75.0%	71.8%

中学3年生		令和元年度	令和5年度
	前橋市	72.7%	70.2%
	全国（公立）	68.0%	66.0%

質問：1日当たりの読書時間は30分以上（学校以外 月～金）

小学6年生		令和元年度	令和5年度
	前橋市	44.2%	36.8%
	全国（公立）	39.8%	37.3%

中学3年生		令和元年度	令和5年度
	前橋市	32.4%	30.5%
	全国（公立）	27.0%	28.4%

（文部科学省：全国学力・学習状況調査）

この表は、第三次計画の策定時に設定した目標に関連する指標について、令和元（2019）年度と令和5（2023）年度の前橋市と全国の状況を示したものです。

「読書は好き」に「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」を選択した子どもは、小学6年生、中学3年生ともに、令和元年度、令和5年度それぞれ全国よりも高い結果となっています。

また、「1日当たりの読書時間は30分以上」の子どもについては、令和元年度は全国よりも高い結果となっていますが、令和5年度の小学6年生は、全国よりも前橋市が低い結果となっています。

経年変化を見ると、全国、前橋市ともにどちらの設問も直近データが低い傾向を示していますが、「1日当たりの読書時間は30分以上」の中学3年生の全国の割合が、令和元年度よりも令和5年度が高くなっています。

第3章 第三次延長計画のこれまでの取り組み

1 家庭における読書活動の取り組み

乳児に対しては、絵本を通して親と子がふれあい、絵本に親しむきっかけとなるよう赤ちゃんに絵本を1冊プレゼントするブックスタート事業を実施しました。母子健康手帳交付時に事業を紹介し、出産後は関係機関と連携し家庭訪問による引換券配付を行いました。引換期間を6か月延長し、転入などによる未引換者に通知し絵本引き換え率の向上に努めました。前橋こども図書館では絵本引き換え時にボランティアによる読み聞かせを行ったほか、フォローアップ事業を実施しました。また、図書館分館（地区公民館）でも4か所でおはなし会を開始しました。

各地区で開催している健康教室において親子を対象に絵本の紹介や読み聞かせ、紙芝居などを実施しました。

2 学校等における読書活動の取り組み

幼稚園・保育所（園）・認定こども園において毎日の保育の中で読み聞かせを実施し絵本やおはなしへの興味関心を高めるとともに、保護者に読書の楽しさと大切さを伝えました。また、前橋こども図書館の絵本セット団体貸出を利用し、施設にはない絵本と出合う機会を提供し絵本の充実を図り、園児たちが前橋こども図書館を訪問し、興味のある絵本の貸出利用や、関心のある事柄を調べる経験をしました。

学校内で教師や児童生徒、地域のボランティアによる読み聞かせを行いました。調べ学習等の授業で積極的に学校図書館を活用し、学習活動の充実に努めました。おすすめ図書リストの作成や特設展示コーナーの設置により、児童生徒が本を手に取りたくなるような環境の整備を行い、図書委員会の活動を充実させて児童生徒が主体的に本に親しむ機会をつくりました。



幼稚園などに貸し出す絵本セット



前橋こども図書館の活用

3 図書館における読書活動の取り組み

おはなし会などの図書館に親しむイベントを前橋市読み聞かせグループ連絡協議会等ボランティアと協力して開催し、読み聞かせの大切さなどについて普及啓発に努めました。また、親子のふれあいや絵本を楽しむ体験を目的に読み聞かせ講座を開催するとともに、読み聞かせボランティア養成講座を開催しボランティアの育成や支援を進めました。

中高生の職場体験、学生ボランティアの受け入れや、図書館キッズ、サマーフレンズ、こども図書館員体験事業等を実施し、本や図書館に親しみ、本を通して異年齢の子どもが触れ合う機会を提供しました。小学1年生に図書館利用カードを配付し、中学1年生におすすめ図書のブックリストを配信しました。

また、おすすめ本リストを作成・配布し、図書館が発行する広報紙やホームページ等に掲載するとともに、新刊本や季節など時の話題にあわせた図書の展示を行い、読書に対する興味・関心を高めるよう読書情報の提供に努めました。

児童書をはじめとした多様な図書資料の充実を図り、電子書籍の貸出サービスを開始しました。また、障害や多文化等多様性に対応するため、点字つきや外国語の資料等の充実にも努めました。



親子対象の読み聞かせ講座



前橋市読み聞かせグループ連絡協議会の研修

4 地域における読書活動の取り組み

図書館分館や公民館等の各施設において、親子が一緒に楽しく本に親しむ場所や機会を提供し、地域のボランティア団体と協力・連携し、おはなし会やイベント等を開催しました。また、ボランティアの活動を支援し読書活動を推進しました。



ブックスタート おはなし会



まえばし人形劇フェスタ ボランティア

第4章 前橋市における子ども読書活動の現状と課題

1 第四次計画策定に向けてのアンケートの実施

前橋市における子ども読書活動の実態を把握するため、令和6(2024)年5月、市内各地区の幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒、保護者及び施設を対象とし、アンケートを実施しました。アンケートの詳細については、資料編で掲載しています。

2 アンケート結果を受けての課題

(1) 学校図書館の充実

小学生、中学生及び高校生のすべてが公共図書館よりも学校図書館を利用する割合が高いことが読み取れます。読みたい本を「学校図書館から借りる」が多く、どのようにすればもっと本を読みたくなるかという質問には「学校の図書館に児童・生徒が好む本を置く」や「学校で読書する時間を増やす」が多く、本の整備や読書時間の確保など、子どもたちにとって一番身近に本と接することができる場所である学校図書館の充実が求められていることがわかりました。



学校図書館

(2) 電子書籍について

小学生は「利用したことがない」が多く、全体的にも半数以上があまり利用していません。保護者の子どもの本の入手先として「紙の本を購入する」が多く、次に「図書館で紙の本を借りる」で、電子書籍の利用はわずかでした。電子書籍に対して、メリットを感じつつも慎重な考え方が多く、発達段階に応じた子どもの読書環境への影響を把握し対応していく必要があります。また、紙の本と電子書籍を切り離すのではなく、双方のよい面を活用していくことが重要です。本を読む目的や状況に応じて、両者を適切に使い分ける力を身につけることで、読書の質が高められることを伝え、子どもたちを支援していくことが求められています。

(3) 家庭での取り組み

読書をするきっかけづくりとして、日頃から親子で図書館や書店に行ったり、小さいころから読み聞かせをしたりするなど、本に触れる機会をつくっているこ

とがうかがえます。しかし、特に意識していない家庭もあり、読書に関心のない家庭や子どもたちをいかに取り込んでいくか、図書館や学校、地域などが働きかけ支援することが必要です。

家庭での取り組みで重要なのが保護者の存在であり、大人に向けても乳幼児期から読書の楽しさを体験することの大切さや読み聞かせの重要性を引き続き周知啓発していく必要があります。

(4) 図書館への要望

全体で「色々なジャンルの本がそろっている」ことを望む回答が多数ありました。次いで、中学生及び高校生は「学習するスペースがある」「Wi-Fiが使える」が多く、保護者は「子どもと一緒に本を読むスペースがある」が多くありました。豊富な資料と学習や会話のできるスペースの充実が図書館に求められています。また、わからないことを調べる手法としては、「先生や友だち、家の人に聞く」が多く、学年が上がると「インターネットで調べる」が多くなります。本の活用や図書館の利用を啓発していく必要があります。

昨今は、急速に変化する社会に順応できる資質や能力を育むことが大人にも子どもにも求められています。とりわけ子どもたちは、1日24時間の中で勉学や友人との交流、スポーツ、遊び、そして読書など日常生活でのさまざまな経験を通して、自立した社会人として生きるために必要な力を蓄えていく過程にあることから、引き続き読書時間の確保に向けた取り組みを行っていきます。

子どもが主体的に読書活動を行うことが、その子自身の可能性を引き出すことにつながるよう、図書館や学校、地域において時代にあわせた多様な読書機会の提供に努めるなど、子どもの主体性を引き出すことに着目して読書の質を高めていく取り組みがより一層求められています。



学校フェスタ おはなし会



新たな本との出会いを提供する〇〇袋

第5章 第四次計画の基本的な考え方

1 基本理念

継続的な読書の習慣を身につけ、数多くの本を読むことでさまざまな分野の知識が得られます。たくさん本に出合うことで物事を想像する力が身につき、他者を知ることや世界や歴史上の人物を知ることにつながります。変わり続ける社会の中で、予測がつかない出来事が起こったときにも、考え、主体的に自分の人生を切り開く力、失敗を恐れずにチャレンジする力を身につけることができます。それらを可能にするためには、子どもたちが読書する機会を増やし、自分と向き合う時間、自ら考える時間を確保することが何より大切です。本を通して子どもたちのさまざまな可能性を広げるために、読書に対する意欲を高める取り組みを推進していきます。

また、多くの本を読むことも重要ですが、読書の大事なところは、読んだ冊数(量)だけで表せるものではありません。子どもたちの感性を磨き、読解力や思考力を養い、興味を引き出すためには、読書の「質」も求められます。読書の「質」を高める取り組みを推進していきます。

2 目 標

子どもが主体的に本に触れ、親しむ環境を整える

子どもが自分の人生を切り開くうえで読書は大切な役割を果たすものです。子どもが主体的に本に触れ読書に対する意欲を高め、将来への可能性を広げるために、図書館や学校、地域が連携して時代にあわせた多様な読書機会を提供し、子どもの読書活動を推進していきます。

3 計画の4つの活動方針

【方針1】発達段階に応じた読書習慣の定着

子どもの年齢や理解力、興味に応じた工夫が大切となります。乳幼児期には家庭の読み聞かせを大切にしてもらうために、図書館を利用してもらうきっかけづくりとして、おはなし会などさまざまなイベントを開催します。ブックスタート事業の推進や、親子を対象とした絵本の紹介や、読み聞かせの研修会を開催します。年齢にあわせたブックリストの展示や、おすすめ本の情報などの提供を進めます。

【方針2】学校図書館・公共図書館の一層の活用

調べ学習などの教育活動に応じた資料の提供や、子どものニーズにあわせた図書整備を進めます。各教科や総合学習の時間などで学校図書館の活用機会を

増やします。子どものニーズを把握しながら、利用しやすい図書館づくりを進め、子どもの読書活動を推進する中心的役割を担います。図書館本館と市内全地区に設置した図書館分館の連携により、利便性を継続していきます。

令和5(2023)年に策定した図書館新本館基本構想・基本計画に掲げられた子どもに対するサービスについて、計画的に取り組めます。新本館が目指すサービス拡充策の一つに「子どもの自主性を育む」として、子どもがおしゃべりをしたり、動いたりしながら自由に読書を楽しめる空間づくりを目指し、中高校生が楽しく学習できるスペースを設置し、子どもたちの学びや知力を支えます。

【方針3】デジタル社会に対応した読書環境の整備

電子書籍等デジタル書籍の環境を整え、適切に活用するための支援を行います。電子書籍を発達段階に応じて適切に活用するために、機器の使い方や検索方法等の支援を行います。また学校での教育活動で有効に活用できるよう支援を行います。

図書館新本館が目指すサービス拡充策の一つとしてのデジタル技術を活用したサービス拡充を進めます。

【方針4】社会全体で読書活動推進に取り組むための連携及び周知啓発

地域で活動する読み聞かせボランティアなどの団体と連携し活動を支援していきます。人が集まる場所に本を置き、いつでも気軽に本に触れる環境を整えます。図書館の活動を広く発信し、読書活動への関心を持ってもらう取り組みを行います。

前橋ブックフェスなど、本に関係するイベントに協力・参加し、本に親しみ、楽しむ機会を増やす取り組みを行います。



前橋ブックフェス おはなし会



まえばし人形劇フェスタ

第6章 第四次計画における具体的な取り組み

1 4つの活動方針とその具体的な取り組み

第6章では、第5章3計画の4つの活動方針で掲げた【方針1】から【方針4】までの取り組みについて、具体的な内容を示します。



【方針1】発達段階に応じた読書習慣の定着

(1) 家庭における読書活動の推進

子どもの読書習慣は、日常の生活を通して成長とともに身に付きます。子どもが本と触れ合うことのできる最も身近な場所が家庭です。子どもが読書習慣を身に付けるためには、子どもにとって最も身近な存在である保護者が、子どもの読書に理解と関心を持ち、子どもが本に親しめる環境づくりに積極的に関わることが大切です。そのため家庭においては、できるだけ早い年齢から子どもの身近なところに本を置き、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館などたくさんの本に触れる環境に出向いたり、さまざまな手段で子どもが本に親しみ、本を読む喜びを感じる機会をつくることが重要です。

家庭における読書活動を推進するため、ブックスタート関連事業の推進や健康教室等での絵本の紹介や読み聞かせの実施など、乳幼児期から親子で絵本に親しむきっかけとなる機会を提供し、親子で子どもの読書に関われる取り組みを進めていきます。

家庭における取り組み

取り組み	内 容
絵本の紹介 (こども支援課)	ハローベビークラス(初妊婦)及びひよこクラス(生後2～3か月児とその親)で、ブックスタート事業で引き換えできる絵本の紹介
ブックスタート事業の推進 (こども支援課・図書館)	①赤ちゃんに絵本を1冊プレゼントするブックスタート事業を推進する ②母子健康手帳交付時にブックスタート事業の紹介を行い、出産後、助産師会との連携や市助産師・保健師が家庭を訪問して引換券を配付 ③ブックスタート絵本の引き換え時にボランティアによる読み聞かせを行うほか、フォローアップ事業を実施し、地区ブックスタートおはなし会の開催地区数及び開催数の増加を図る ④転入などによる未引換者に通知し絵本引換率の向上に努める

読み聞かせの実施 (こども支援課)	①すこやか健康教室では、講座内容により絵本等で読み聞かせを実施 ②こども発達支援センターの早期療育支援事業（あそびの教室）では、プログラムにより絵本の読み聞かせを実施
多文化共生への施策 (障害福祉課・図書館)	①視覚に障害のある学齢児以上の者のうち、在宅療養等支援用具の活用により拡大された文字等を読むことが可能な者に視覚障害者用読書機を給付 ②重度の視覚障害がある学齢児以上の者にデイジー図書再生機器（視覚障害者用ポータブルレコーダー）を給付 ③主に情報の入手を点字により行っている視覚障害のある学齢児以上の者に、点字により作成された図書及び点字新聞を給付 ④図書館新本館では、視覚障害者に向けてユニバーサルデザインに特化した設備や機能とする【新規】

（２）地域における読書活動の推進

各地区の公民館や児童文化センター、児童館など地域の子どもの対象とした施設や歴史資料館等では、子どもの読書活動を推進するためにさまざまな活動を行っています。本と子どもたちをつなげる「人」とのかかわりを大切に育み、地域で活動するボランティアグループ等と協力し、地域での子育てに対する意識を高める取り組みを進める中で、子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供します。

地域における取り組み

取り組み	内 容
読み聞かせ講座 (生涯学習課)	①公民館主催の子育て、親子支援事業において、発達段階に応じた絵本の選び方や、親子の触れ合いの大切さを伝える取り組みを行う ②地域で子育てをするという意識の向上やボランティア活動の支援を目的に、公民館主催の子育て、親子支援事業において読み聞かせの方法等を学ぶ講座を開催
読書活動啓発 (生涯学習課)	各種イベント等で、絵本の読み聞かせ等を行い、地域で子どもの読書活動に理解と関心を持ってもらう取り組みを行う
団体との連携 (教育支援課)	ボランティア団体の読書関連事業を活用し、人と人をつなぐ活動の支援を実施
団体等への周知啓発 (生涯学習課)	地域団体や自主学習グループ等に対し、研修会や勉強会に読み聞かせ講座を取り入れるよう働きかけ、地域での子育てに対する意識を高める取り組みを実施

読み聞かせの実施 (教育支援課)	①イベント開催時などでボランティアの会の読み聞かせや紙芝居などの活動支援を行い、絵本や本にふれあう機会を創出 ②新刊や年齢に応じた絵本等の紹介など来館者親子への読書推進を図る
学生ボランティア・ 職場体験の受け入れ (こども施設課)	学生ボランティア体験等において、異年齢の子どもに絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い、子どもたちとイメージを共有する楽しさや大切さを経験させる
本の紹介・展示コーナーの設置 (こども支援課・こども施設課・教育支援課)	①児童文化センターにおいて、科学・文化芸術活動や環境保全活動などに関連した本を充実させるとともに、展示を工夫し各種活動との相互作用を図り、体験を通じて学べる環境を整える ②年齢や発達に応じたおすすめ図書リストの作成、ポップカードなどによる図書の紹介、子育て支援関連図書の紹介などにより本を選ぶ際の手助けをする ③プライバシーに配慮した乳幼児健康診査(集団健診)の実施に関連し、性教育としてのプライベートゾーンの周知啓発を目的として、健診会場の診察待ち合いスペースに関連絵本の展示コーナーを設置【新規】
地域連携図書室の設置 (図書館)	図書館新本館において保育園や学校、その他各種団体が直接入って図書を選べる地域連携図書室を設置【新規】

(3) 幼稚園・保育所(園)・認定こども園における読書活動の推進

幼い頃から絵本等に触れることは、子どもの知的・言語的発達に強く影響し、感性や創造力を豊かにすることから、子どもの成長や発達にきわめて重要です。幼稚園・保育所等では、日頃の保育の中での読み聞かせにおいて、子どもの心を育み絵本やおはなしの楽しさを知らせるとともに、保護者に対して読み聞かせの楽しさや大切さを伝え、乳幼児の読書習慣の形成を促していきます。

幼稚園・保育所(園)・認定こども園における取り組み

取り組み	内 容
読み聞かせの実施 (こども支援課・こども施設課・教育支援課)	①毎日の保育の中で読み聞かせを実施するとともに、幼い時期から絵本に出合えるよう各園所で各家庭に本の貸し出しを行う ②保護者参加の行事などで大型絵本や紙芝居、仕掛け絵本などの読み聞かせを行い、親子でおはなしの楽しさを共有する ③おくちげんき教室(各園所)では、歯科衛生士が口に関する講話とあわせて紙芝居等で読み聞かせを実施

研修会開催 (こども施設課)	資質向上を図るため、幼稚園教諭、保育士対象の研修会を開催し、乳幼児が絵本や劇遊びなどに親しむ環境づくりについて学ぶ
親子読書 (教育支援課)	幼児の興味や関心を引く内容やおはなしの楽しさを味わえる内容の月刊絵本を活用し、親子で本を楽しむ環境づくりを行う
本に触れる環境づくり (こども施設課)	図書館の絵本セット団体貸出を利用し、たくさんの絵本に触れあう機会をつくる
団体との連携 (こども施設課・教育支援課)	ボランティア団体の読み聞かせ事業を積極的に活用し、子どもと本をつなげる「人」とのかかわりを大切にする仕組みをつくる
図書館の活用 (こども施設課)	図書館を訪問し、興味のある絵本の貸し出しを利用し、関心のある事柄を幼児なりに調べる経験をさせる

【方針２】学校図書館・公共図書館の一層の活用

(１) 小学校・中学校における読書活動の推進

小・中学生期は、読書習慣を身につける大事な時期であるため、児童生徒の一番身近な学校図書館を計画的に活用し、読書指導を行います。また、学校図書館の読書環境の整備や図書資料の充実を図り、児童生徒が主体的・意欲的に読書活動や学習活動に取り組める環境づくりをさらに進めていきます。

小学校・中学校における取り組み

取り組み	内 容
読み聞かせの実施 (学校教育課)	①担任及び教科担当や、地域の人や保護者ボランティアを募り、朝読書の時間などに読み聞かせを行う ②図書委員会の児童生徒が、学校図書館、昼の放送にて、読み聞かせを行う
本に触れる環境の整備 (学校教育課)	①年齢や発達に応じたおすすめ図書リストを配布する ②授業に関連した図書資料(図鑑、同じ著者の作品など)を教室に展示 ③季節や行事に応じた特設展示コーナーや学習内容、社会で話題になっていることに関連した展示コーナーを設置
授業における読書活動 (学校教育課)	本を読んだ感想を友達と話し合うことや、おすすめ本を紹介するポップやポスター作りなど、授業の中で本に親しむ機会を増やす
本に親しむ読書活動 (学校教育課)	①図書委員によるブックトークやレファレンスサービスなど、図書委員会の活動を充実させる ②読書感想文及び読書感想画コンクール等への参加を呼びかけ、多読者を表彰することで、読書への関心と意欲を高める

学校図書館の活用と整備 (学務管理課・学校教育課)	①調べ学習セット等を作成し、各学年・学級のニーズに応え学校図書館の活用を促す ②学校図書館オリエンテーションを実施し、図書の分類や探し方の学習を行う ③市内の学校における貸し出し人気作品のリストを作成し、市内の学校で共有・活用し、蔵書の充実を図る ④学校司書として学校図書館業務従事臨時職員を配置し、全体で研修を行い、スキルアップ及び学校間の連携強化を図る
親子読書の啓発 (学校教育課)	学校や図書館で発行する広報紙等を家庭に配布し読書の啓発を行い、読書月間や読書週間などの取り組みやおすすめ本等の情報提供を行う
司書の訪問支援の実施 (図書館)	図書館新本館基本構想・基本計画にある4つの基本方針の一つである、学び、知力を「支える」ために、学校への司書の訪問支援を拡充【新規】

(2) 高等学校における読書活動の推進

高校生は自己の興味関心に応じて幅広く多様な読書ができるようになりますが、さまざまな理由から読書離れが進む傾向にあります。生徒の課題解決につながる資料の充実や、図書館や他校との連携事業の推進など、読書活動の大切さを生徒に啓発する取り組みを進めます。

高等学校における取り組み

取り組み	内 容
本に親しむ読書活動 (学校教育課)	①学校の図書委員会が作成する広報紙を毎月発行し、生徒や教員のおすすめ本や新着本の紹介などを行う ②他校との交流を深め、ビブリオバトルなどの読書活動を推進
図書情報の提供 (学校教育課)	新着本コーナーや話題の本などの特設コーナーを設置し、生徒が興味関心を持ち、新たな本と出合う機会を提供
読書活動の推進 (学校教育課)	①授業の中で、本を読んだ感想や自分の変化を表現し、友達に伝えるなどの本に親しむ活動を行う ②学校図書館を活用した学習指導の充実を図る

(3) 特別支援学校における読書活動の推進

特別支援学校において、児童生徒が豊かな読書活動を体験できるよう読書環境を整備し、必要な支援に応じた取り組みを進めるとともに、関係機関と連携し、児童生徒が主体的に本に親しめるような読書活動を推進します。

特別支援学校における取り組み

取り組み	内 容
読み聞かせの実施 (教育支援課)	朝の会等で教員や読み聞かせボランティアなどによるおはなし会を行い、児童生徒に読書の楽しさを伝える取り組みを行う
本に触れる環境整備 (教育支援課)	①児童生徒の興味関心にあわせて、教室内に本を用意して、児童生徒自ら本を手にとって読めるよう整備 ②図書館の団体貸出等の学校支援事業を活用し、読書機会の充実を図る
本をつなぐ支援の充実 (教育支援課)	保護者や教職員を対象に研修会を開催し、読み聞かせの方法など児童生徒が本に親しむ環境づくり等について学び、資質の向上に努める

(4) 図書館における子ども読書活動の推進

図書館は、子どもが読みたい本を選び読書の楽しさを知り、必要な情報を調べ、知識を得られるようさまざまな分野の本を豊富に備え、子どもの発達の状況に応じた蔵書の充実を図ります。おはなし会や多彩なイベントを開催して、親子で多様な読書の楽しさを味わうことができる機会の創出に取り組みます。0歳の赤ちゃんから高校生まで発達段階に応じて継続してサポートできる読書環境を整え、子どもの読書活動を推進します。

図書館における取り組み

取り組み	内 容
各種イベントの開催 (図書館)	ボランティア団体と協働でおはなし会などのイベントを開催し、図書館や本に関心を持つきっかけとなる機会を提供
読書情報の提供 (図書館)	①読書離れが進む中学1年生に対し、おすすめブックリストをタブレットに配信し、推薦図書などをホームページや図書館が発行する広報紙等で紹介 ②話題の本や、季節、イベントにあわせた展示、各種コーナーを設置するなど子どもたちが新たな本と出合う機会をつくる
学生ボランティア・職場体験の受け入れ (図書館)	図書館キッズ、図書館サマーフレンズ、図書館員体験事業等を実施し、図書館の仕事を体験することで本や図書館に親しむ機会を提供

多文化共生への施策 (図書館)	①特別なニーズのある子どもを対象とした利用しやすい形式の資料（アクセシブル資料）を収集・提供し、自分に適した資料に出合える手助けをする ②外国語の絵本や資料を活用したおはなし会を開催 ③電子書籍の収集に努め、特別支援教育等の団体貸出は、子どもの主体性を尊重した選書方法を導入し読書機会を拡大する
読書環境の整備・充実 (図書館)	①小学１年生へ図書館利用カードとともに「読書通帳」を配付し図書館の利用促進に努める ②図書館新本館では視覚障害者に向けて、ユニバーサルデザインに特化した設備や機能とする ③電子書籍がタブレットで気軽に利用できることを発信
ネットワークの充実 (図書館)	①読み聞かせボランティア養成講座等を開催し、ボランティアを育成・支援 ②読み聞かせボランティアや専門職員を必要とする学校や幼稚園・保育所（園）等への支援を行うなど、多様なボランティア活動を行うための機会や場所を提供
事業・行事の実施 (図書館)	子どもたちがやりたいことを自ら企画し実施できるような機会を設け、子ども同士で行う読書活動等を支援
学校等との連携 (図書館)	①市内の希望する幼稚園、保育所（園）、認定こども園への絵本セット団体貸出の充実 ②小学校・中学校等へ団体貸出を実施し、読書活動や調べ学習への支援を行う
図書館新本館 (図書館)	図書館新本館は、子どもたちが自由に読書を楽しめる広々とした空間や大人も子どもとともにワクワクできる空間を設ける【新規】

【方針３】デジタル社会に対応した読書環境の整備

図書館のみならず社会の潮流はデジタル化に進んでいます。生まれた頃からデジタルが身近にあったデジタルネイティブ世代にとって、ＩＣＴ機器やサービスを利用することは、呼吸をすることと同じように自然な行動であり、この世代に対応したサービスを展開していかなければなりません。図書館新本館基本構想・基本計画の中で、新しい技術を活かした図書館を目指し、来館しなくても情報を得られる仕組みをつくることとしていることから、従来型の図書館から脱却しこれからの時代に即した多様な学びや学習の拠点となる取り組みを行います。

デジタル社会に対応した取り組み

取り組み	内 容
既有機器の活用・デジタル環境の整備 (図書館)	①図書館新本館と前橋こども図書館の統合に伴いＩＣタグの活用を加速し、申請・届出等の書類のすべてをオンライン化しデジタル社会に対応した環境を整える ②Ｗｉ－Ｆｉを整備し、利用者が自身のデバイスで本を検索したり館内での調べものをしたりできる環境を整える
読書意欲を高める施策 (図書館)	図書館が発行する広報紙をオンライン連動コンテンツとして作成・タブレットに配信し、子どもが興味を持ったことを逃さずに読書に誘導する仕組みを整え読書の習慣化につなげる【新規】

【方針４】社会全体で読書活動推進に取り組むための連携及び周知啓発

学校、幼稚園・保育所（園）等の教育機関、公民館等の社会教育機関、公共団体や民間団体と連携、協力して、読書への関心を高める取り組みを行います。また、読み聞かせボランティアの活動を支援するとともに、連携して子ども読書活動を推進し、保護者や地域の大人に向けた啓発に取り組めます。

社会全体での読書活動推進の取り組み

取り組み	内 容
団体等との連携 (生涯学習課・図書館)	①前橋市読み聞かせグループ連絡協議会をはじめとしたボランティア団体等と連携し、人形劇などの読書に親しむイベントを充実させ新規のボランティアの育成を支援 ②民間団体等と連携し、イベントの開催や、各種事業へのボランティアの参加を紹介する ③情報の収集・提供に努め、国・県等の公共団体及びＮＰＯ等と連携しながら子どもの読書活動の意義等について、普及・啓発活動に取り組む
協働ボランティアの育成 (図書館)	さまざまなサービスや事業にボランティアを募って、図書館サポーターとして登録してもらい、協働しながら図書館新本館を運営する【充実】

資 料 編

1 前橋市子ども読書活動アンケート調査結果

(1) 目 的

前橋市における子ども読書活動の実態を把握するとともに読書活動推進の基礎資料とするため

(2) 調査時期

令和6年5月13日～6月5日

(3) 調査概要

調査対象者	配布数	回答数	備 考
小学校 1～3年生	2,262	351	市内 14 校
小学校 4～6年生	2,365	374	市内 14 校
中学校 1～3年生	2,291	242	市内 8 校
高等学校 1～3年生	1,906	683	市内 5 校
保護者	7,115	1,306	市内 25 幼稚園・保育所（園）・認定こども園、市立小学校 11 校、市立中学校 5 校、市内特別支援学校等 3 校の保護者
施 設	28	17	市内 25 幼稚園・保育所（園）・認定こども園、市内特別支援学校等 3 校

(4) 調査方法

市内各地区から対象施設（校）を抽出し「ぐんま電子申請受付システム」により実施

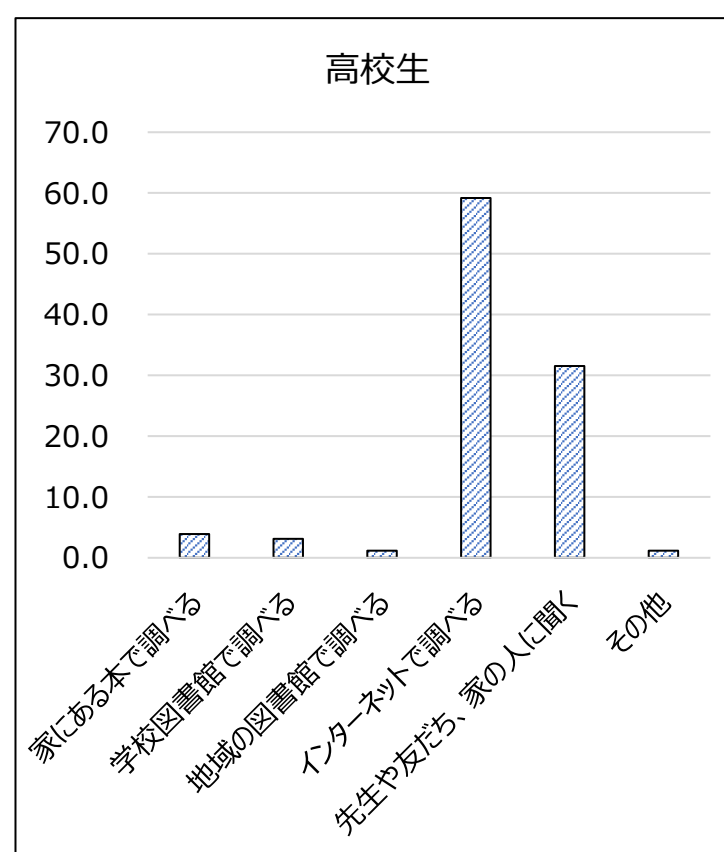
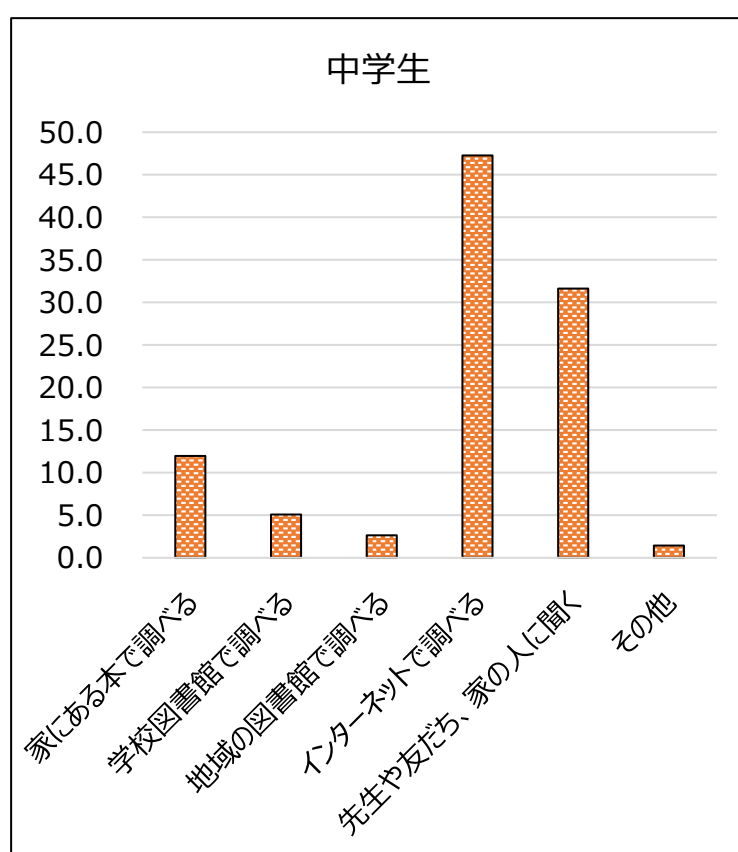
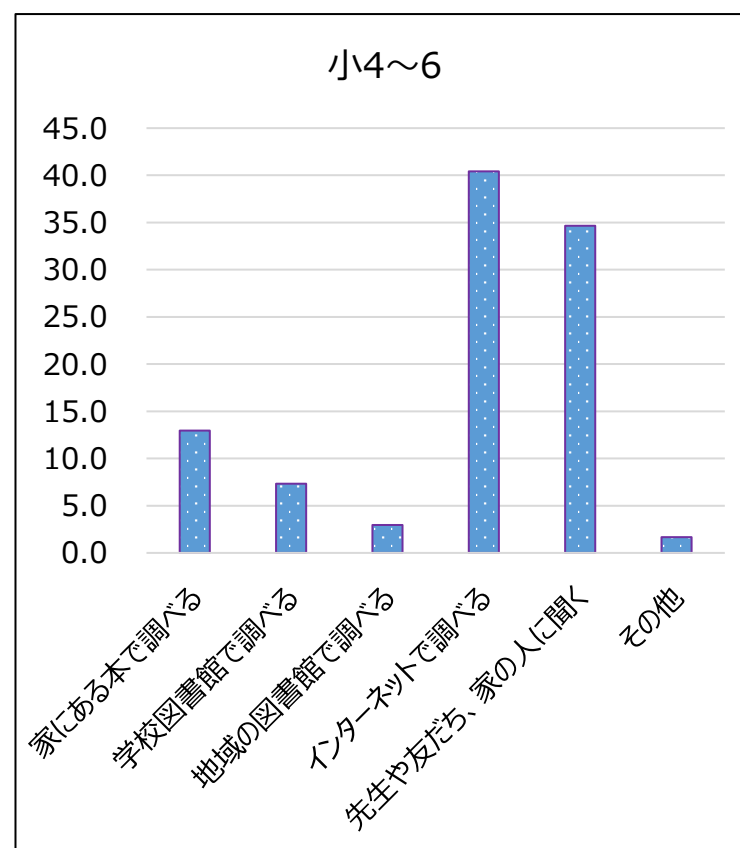
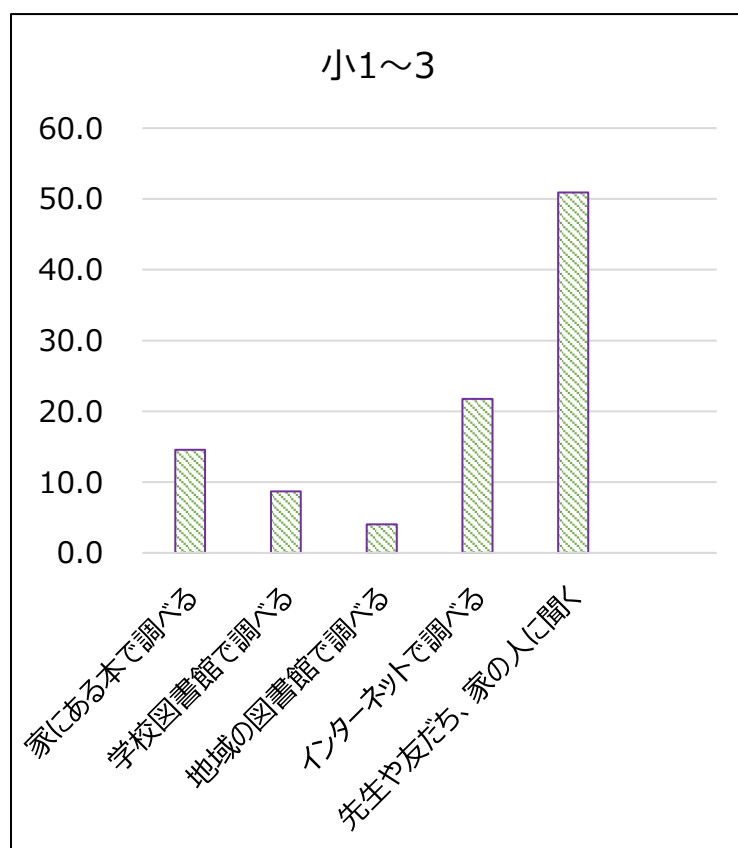
(5) 調査結果

別紙のとおり

● わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べますか。（3つまで選択可）【小学生、中学生、高校生】

(%)

	小1～3	小4～6	中学生	高校生
家にある本で調べる	14.6	13.0	12.0	3.9
学校図書館で調べる	8.7	7.3	5.1	3.1
地域の図書館で調べる	4.0	3.0	2.6	1.1
インターネットで調べる	21.8	40.4	47.3	59.2
先生や友だち、家の人に聞く	50.9	34.7	31.6	31.5
その他	—	1.7	1.4	1.1

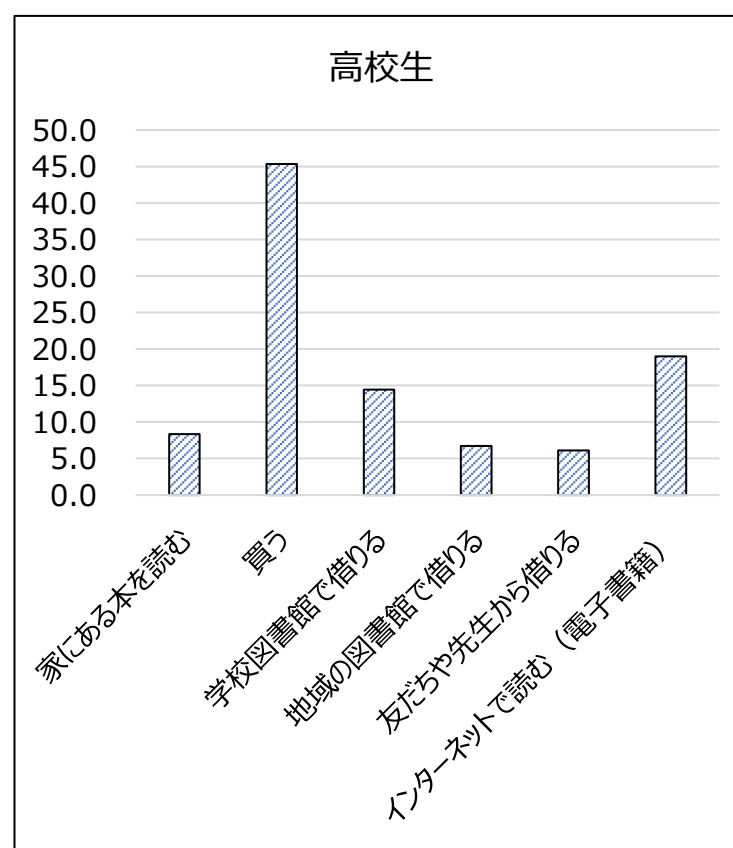
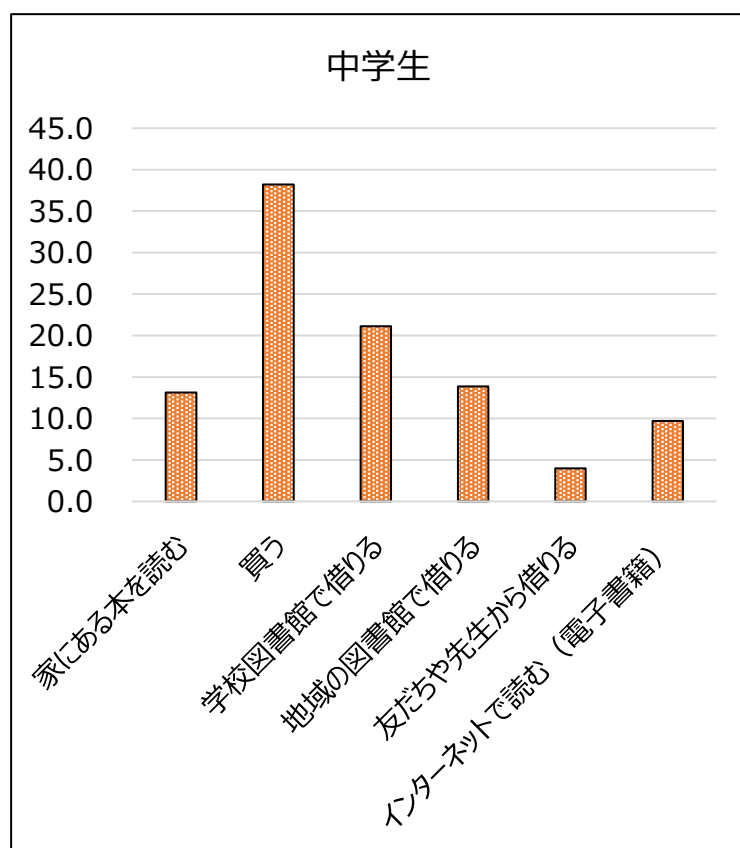
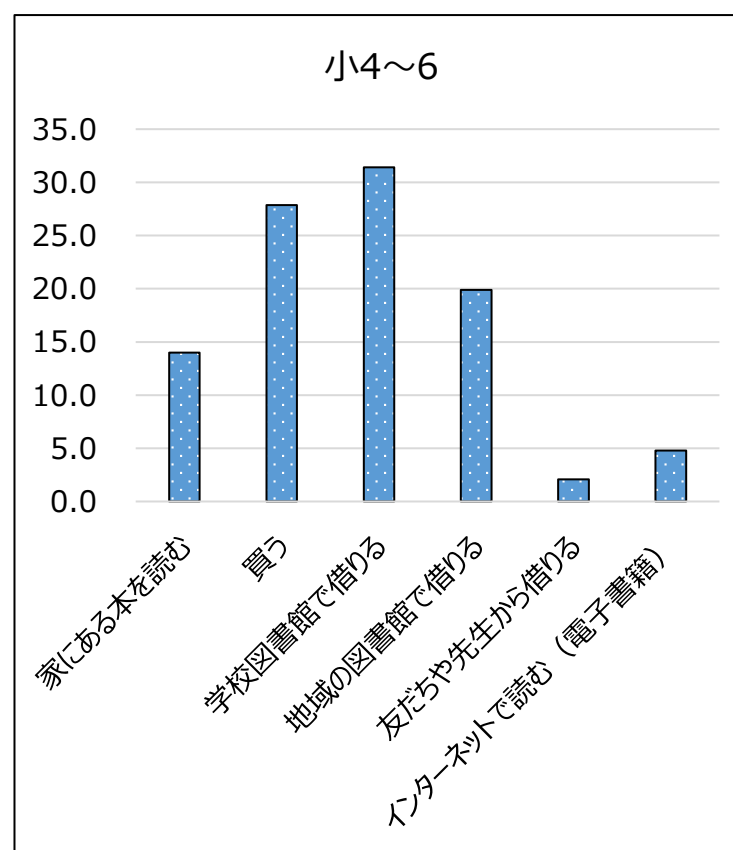
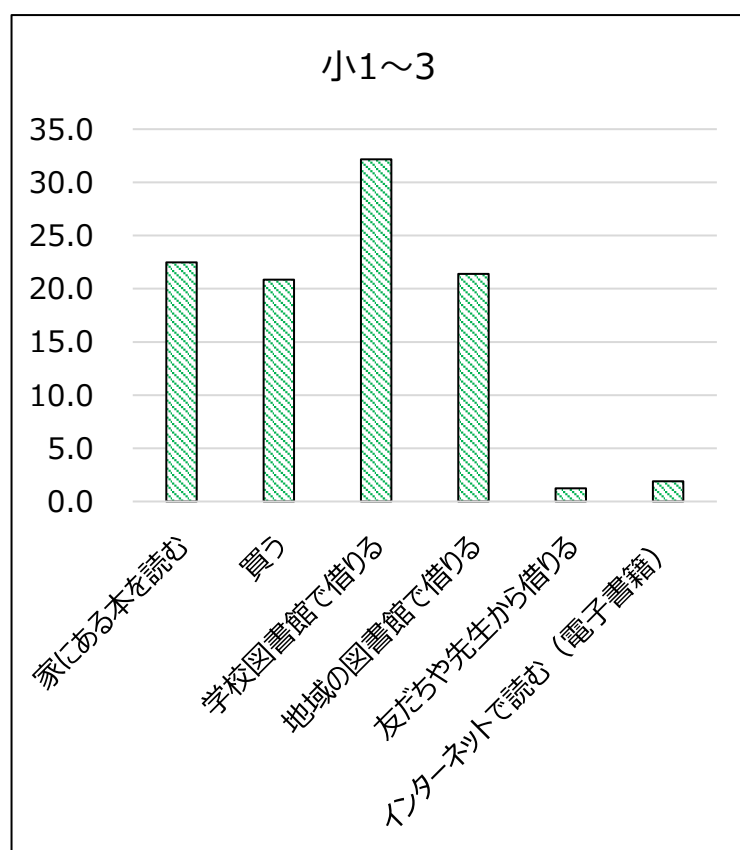


本で調べるよりも、身近な人に聞くことやインターネットで調べることが多い。インターネットでの利用は学年が上がるほど増える。調べる時の図書館の利用は少ない。

● 読みたい本をどのように手に入れていますか。（３つまで選択可）【小学生、中学生、高校生】

(%)

	小１～３	小４～６	中学生	高校生
家にある本を読む	22.5	14.0	13.1	8.3
買う	20.8	27.9	38.2	45.3
学校図書館で借りる	32.2	31.4	21.1	14.4
地域の図書館で借りる	21.4	19.9	13.9	6.7
友だちや先生から借りる	1.2	2.1	4.0	6.1
インターネットで読む（電子書籍）	1.9	4.8	9.7	19.0

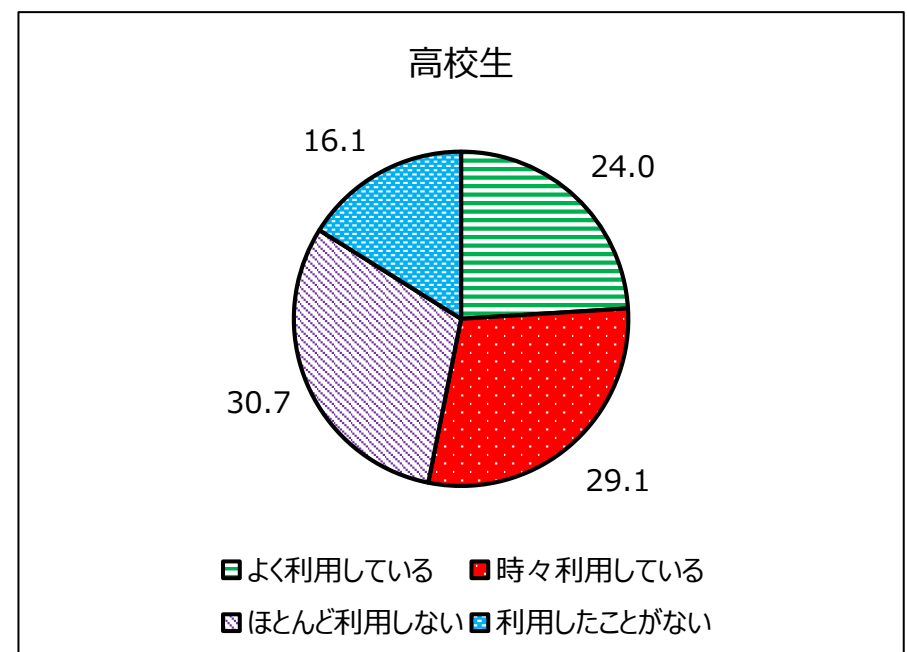
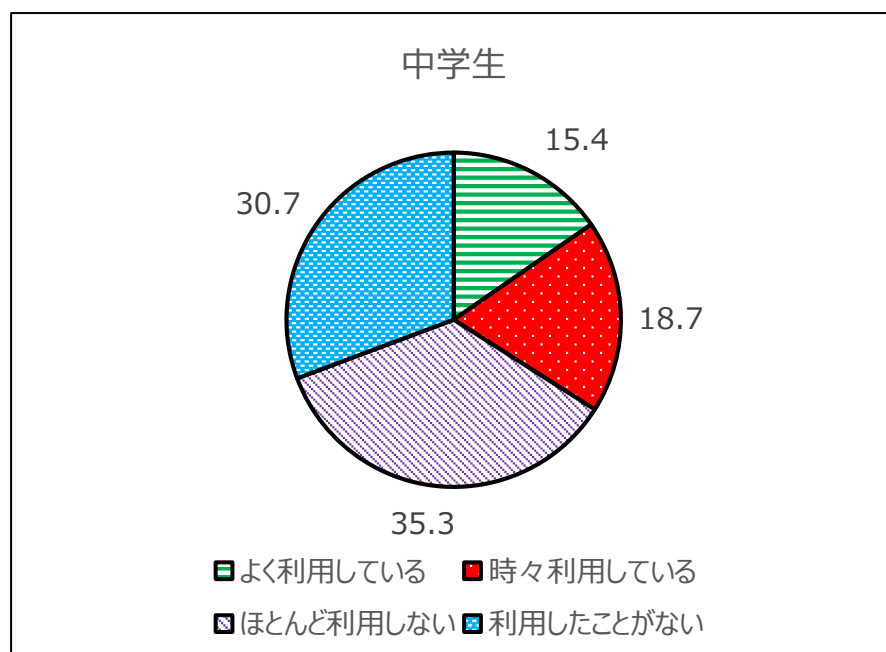
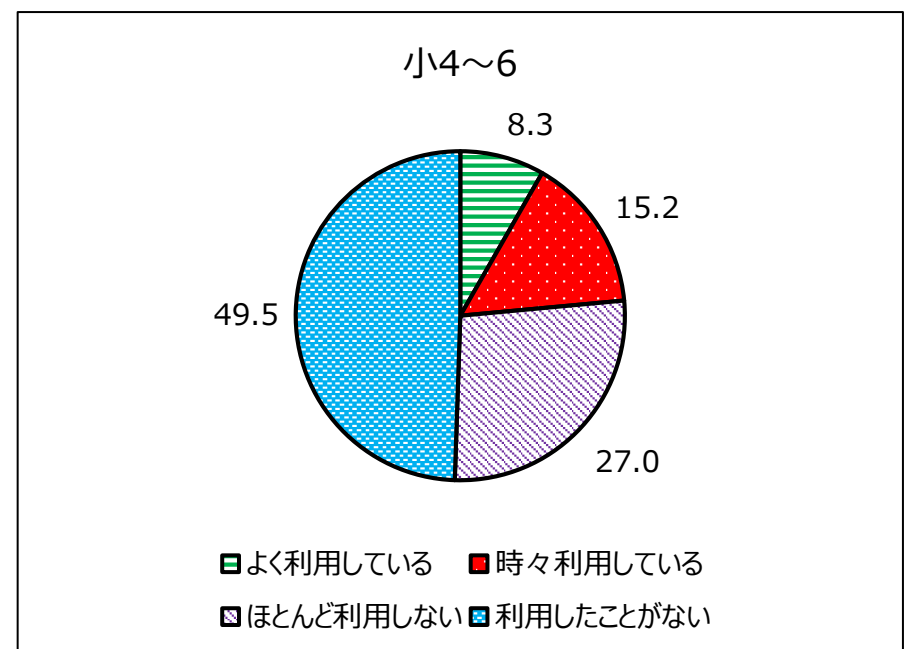
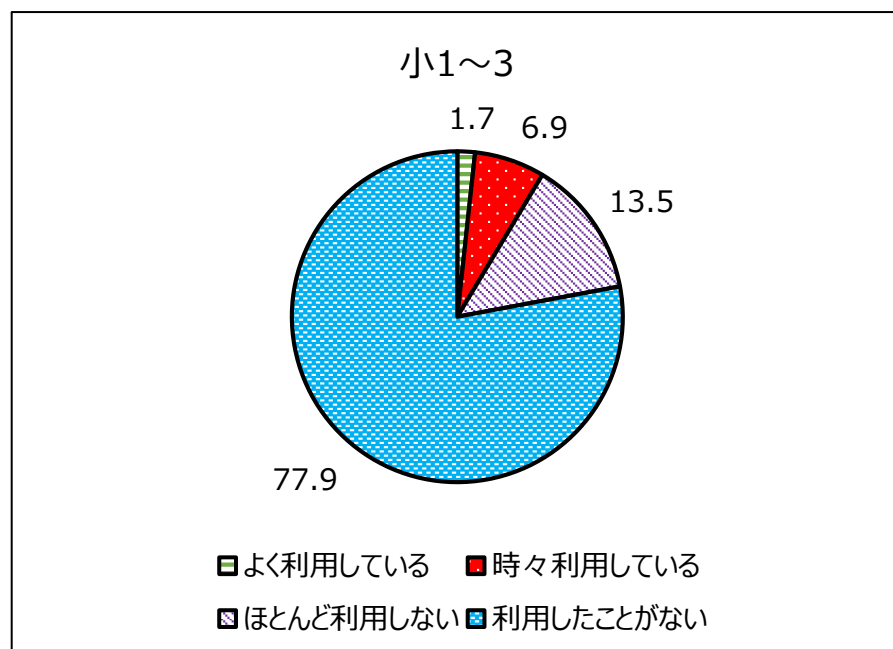


本の入手方法は購入が多く、身近な学校図書館の利用も多い。

● 電子書籍（スマートフォンやタブレット、パソコンなどでよめる本）を利用しますか。（1つを選択）【小学生、中学生、高校生】

(%)

	小1～3	小4～6	中学生	高校生
よく利用している	1.7	8.3	15.4	24.0
時々利用している	6.9	15.2	18.7	29.1
ほとんど利用しない	13.5	27.0	35.3	30.7
利用したことがない	77.9	49.5	30.7	16.1

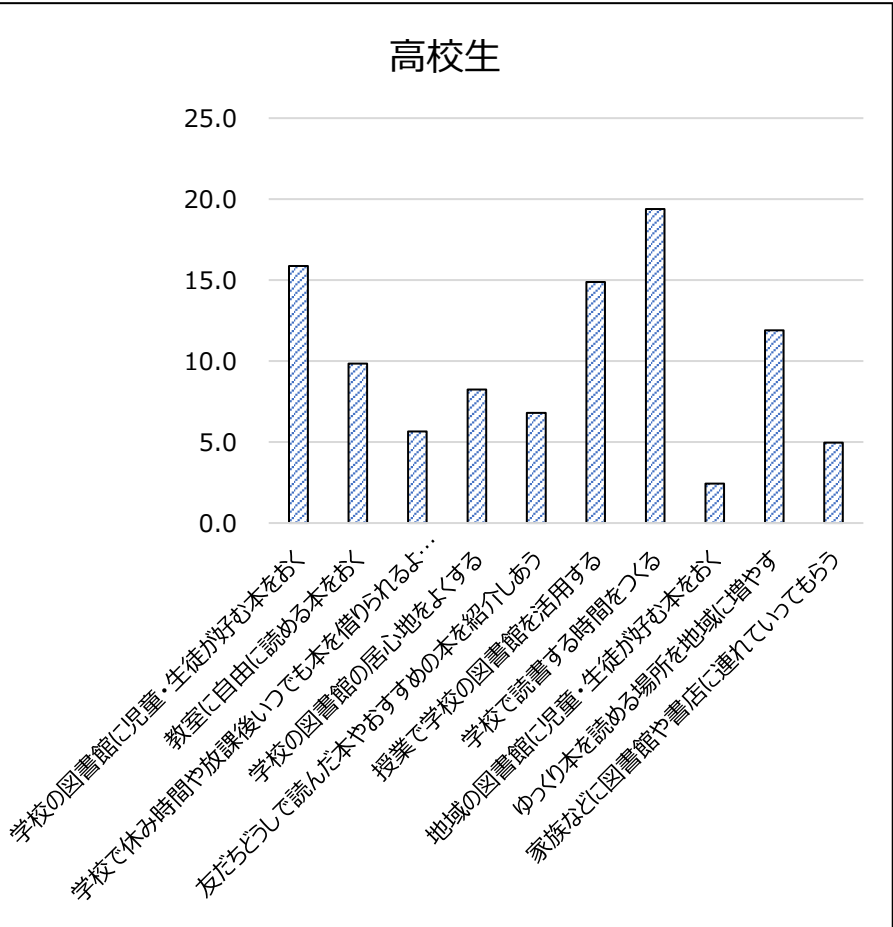
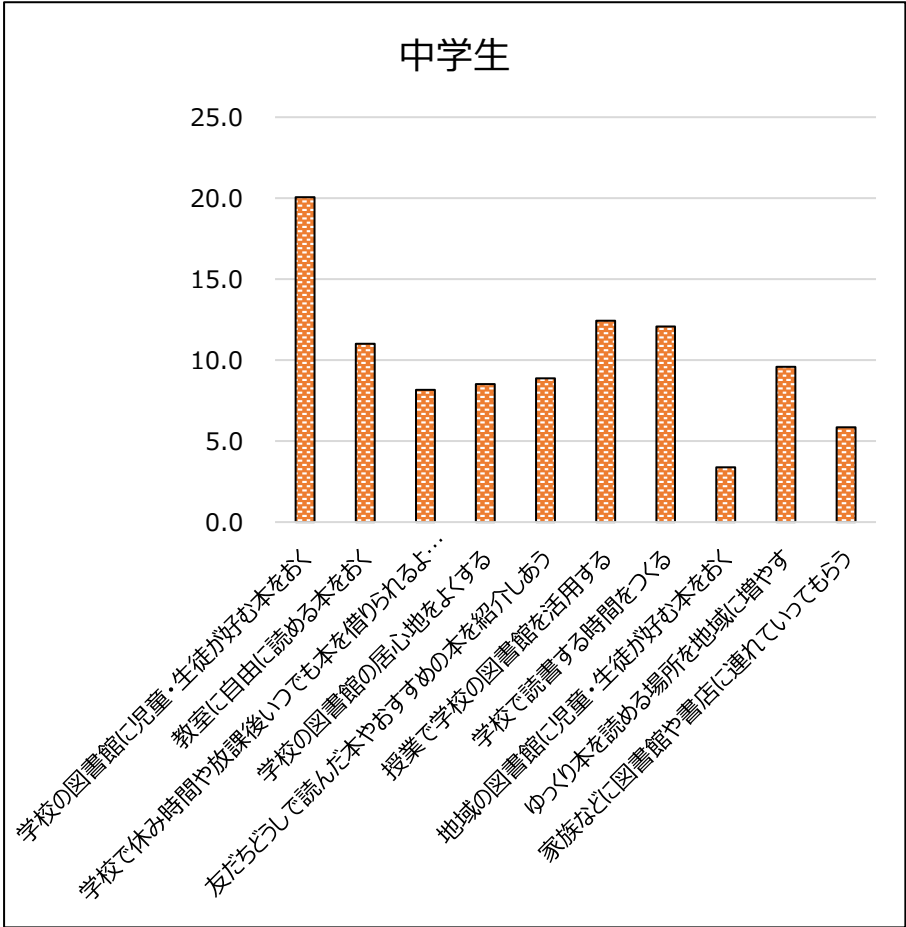
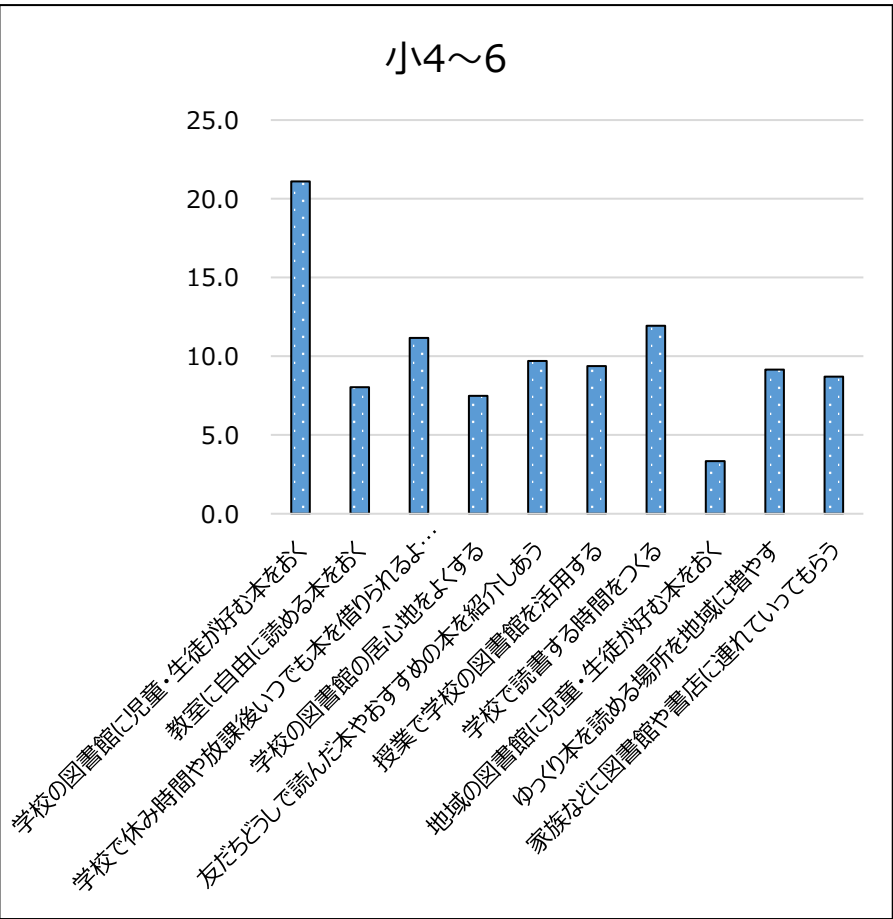
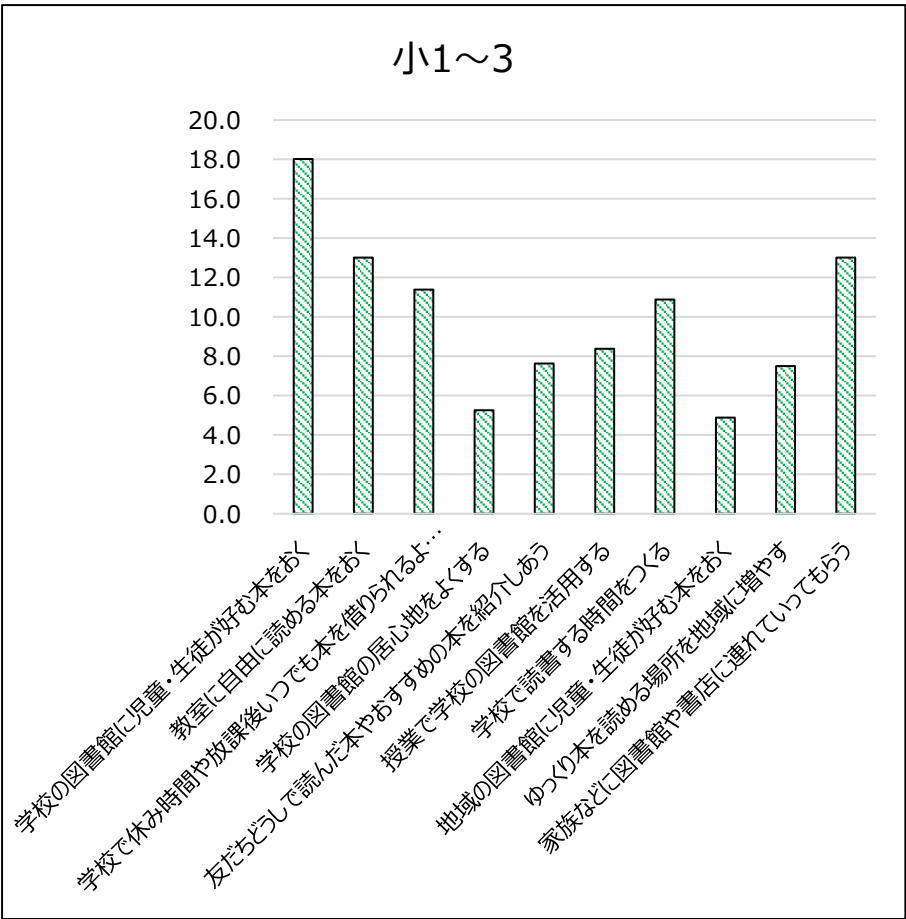


電子書籍の利用は、学年が上がると増えるが、全体的には少ない。

● どのようにすれば、あなたはもっと本を読みたくと思いますか。（３つまで選択可）【小学生、中学生、高校生】

(%)

	小1～3	小4～6	中学生	高校生
学校の図書館に児童・生徒が好む本をおく	18.0	21.1	20.1	15.9
教室に自由に読める本をおく	13.0	8.0	11.0	9.8
学校で休み時間や放課後いつでも本を借りられるようにする	11.4	11.2	8.2	5.6
学校の図書館の居心地をよくする	5.3	7.5	8.5	8.2
友だちどうして読んだ本やおすすめの本を紹介しあう	7.6	9.7	8.9	6.8
授業で学校の図書館を活用する	8.4	9.4	12.4	14.9
学校で読書する時間をつくる	10.9	11.9	12.1	19.4
地域の図書館に児童・生徒が好む本をおく	4.9	3.3	3.4	2.4
ゆつくり本を読める場所を地域に増やす	7.5	9.2	9.6	11.9
家族などに図書館や書店に連れていってもらう	13.0	8.7	5.9	5.0

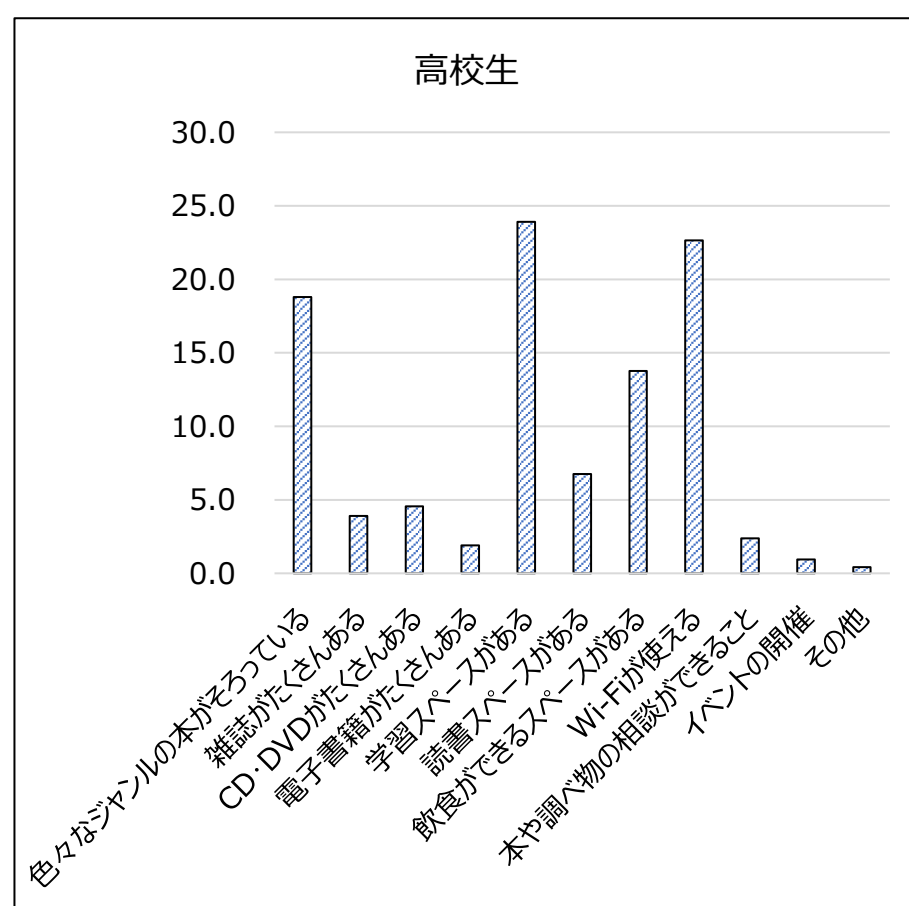
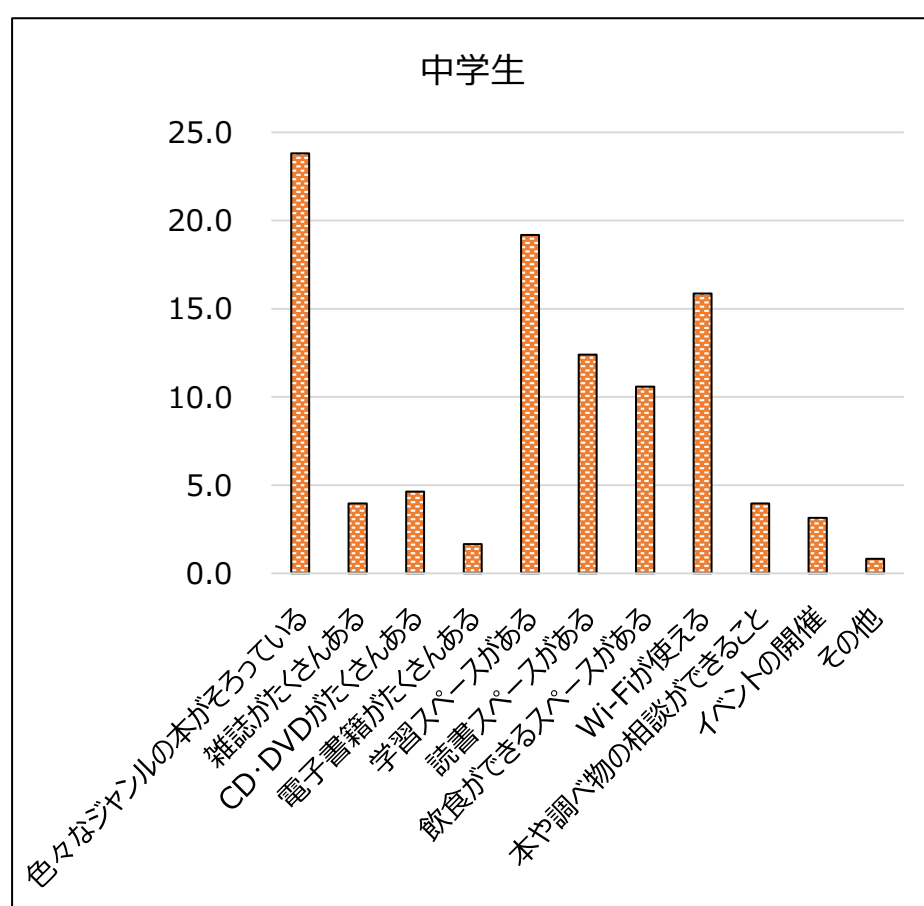
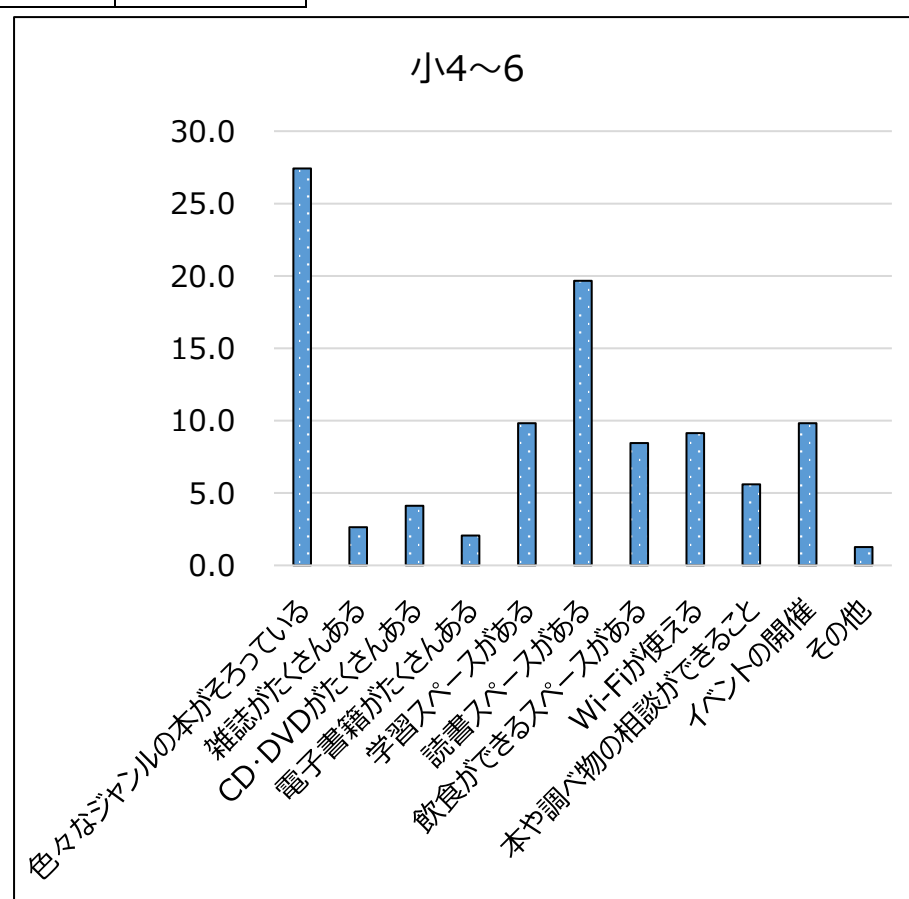
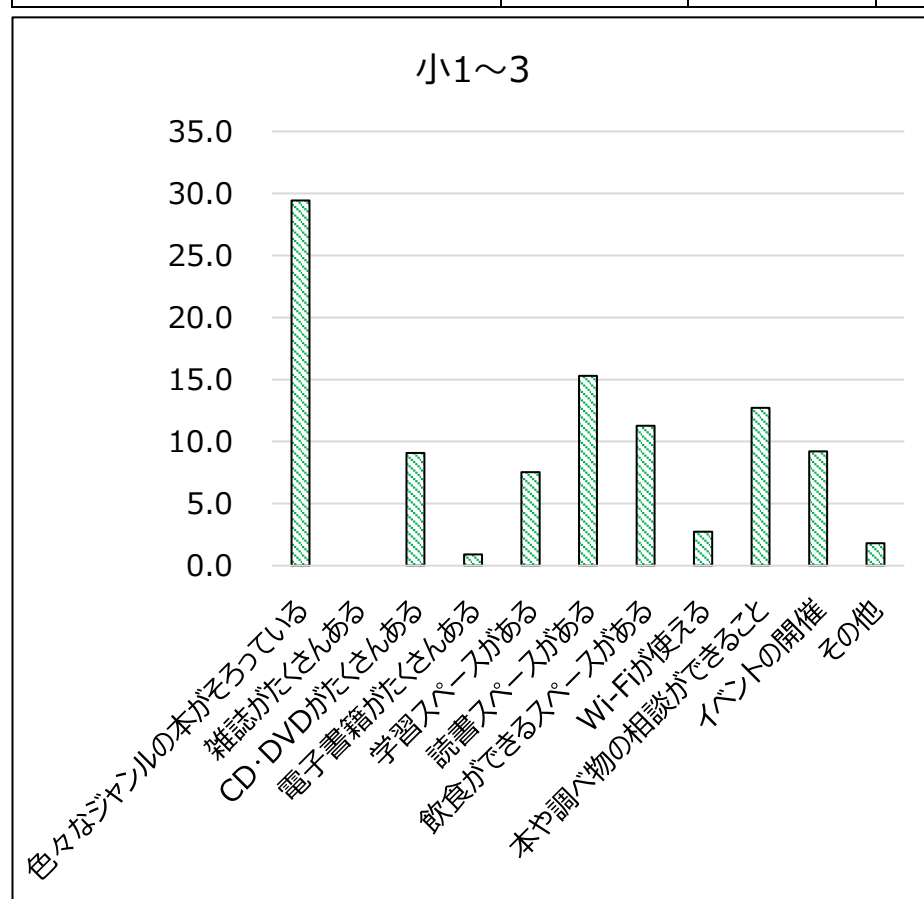


学校図書館の本の充実や、学校で読書する時間の確保が望まれている。

● 地域の図書館に望むことは何ですか。（３つまで選択可）【小学生、中学生、高校生】

(%)

	小1～3	小4～6	中学生	高校生
色々なジャンルの本がそろっている	29.4	27.4	23.8	18.8
雑誌がたくさんある	—	2.6	4.0	3.9
CD・DVDがたくさんある	9.1	4.1	4.6	4.6
電子書籍がたくさんある	0.9	2.1	1.7	1.9
学習スペースがある	7.5	9.8	19.2	23.9
読書スペースがある	15.3	19.7	12.4	6.8
飲食ができるスペースがある	11.3	8.5	10.6	13.8
Wi-Fiが使える	2.7	9.1	15.9	22.7
本や調べ物の相談ができること	12.7	5.6	4.0	2.4
イベントの開催	9.2	9.8	3.1	0.9
その他	1.8	1.3	0.8	0.4

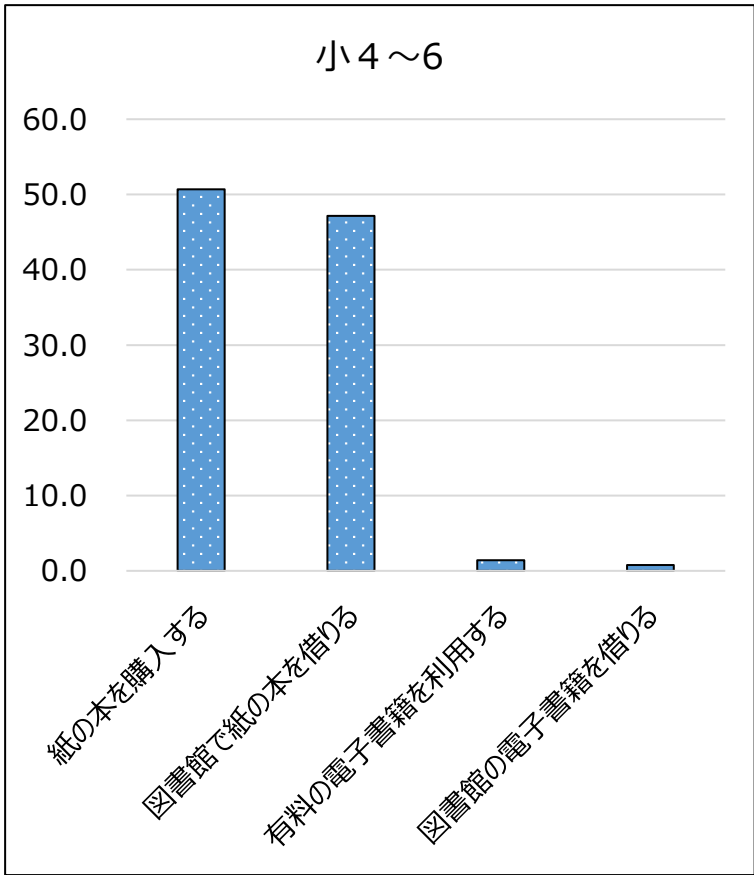
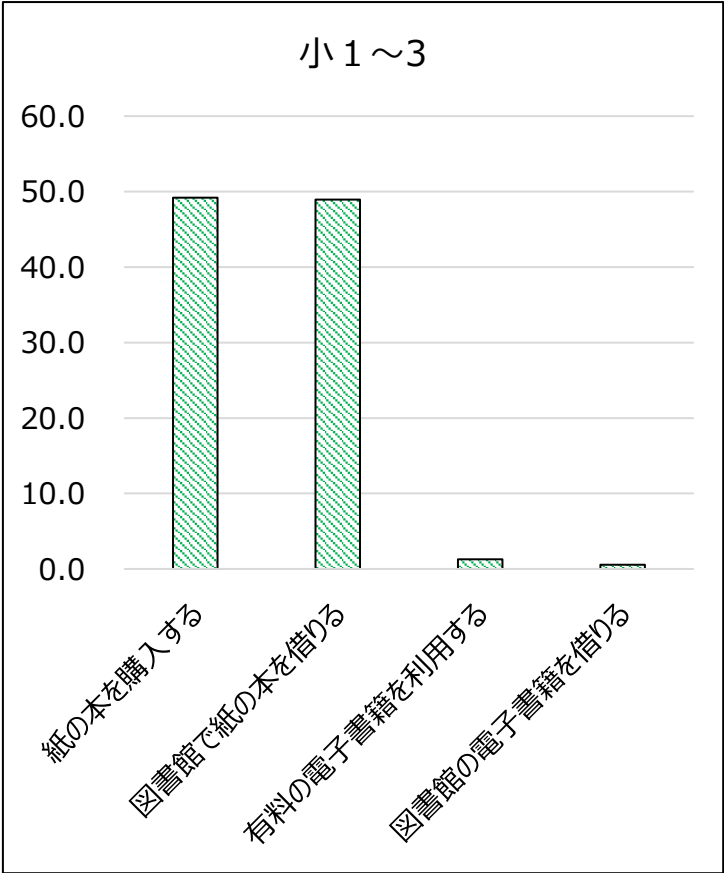
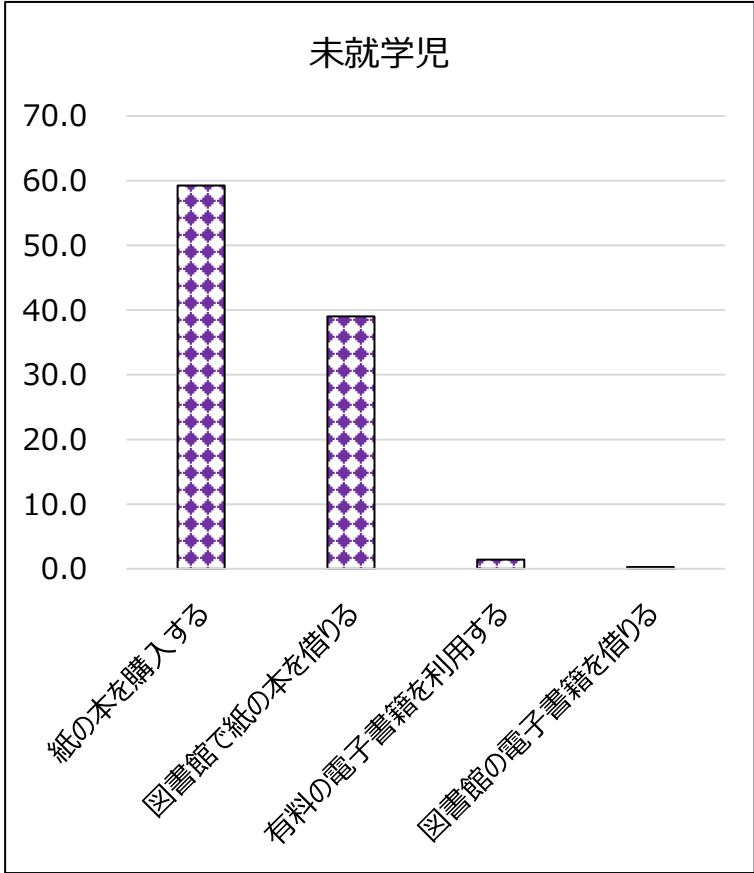


本の充実が望まれている。また、学習や読書をするなど落ち着いて滞在できるスペースの設置、中学・高校生においては Wi-Fi が使える環境が望まれている。

● お子さんの本をどのように手に入れますか。（複数選択可）【保護者】

(%)

	未就学児	小1～3	小4～6
紙の本を購入する	59.3	49.2	50.7
図書館で紙の本を借りる	39.0	48.9	47.1
有料の電子書籍を利用する	1.4	1.3	1.4
図書館の電子書籍を借りる	0.3	0.6	0.8

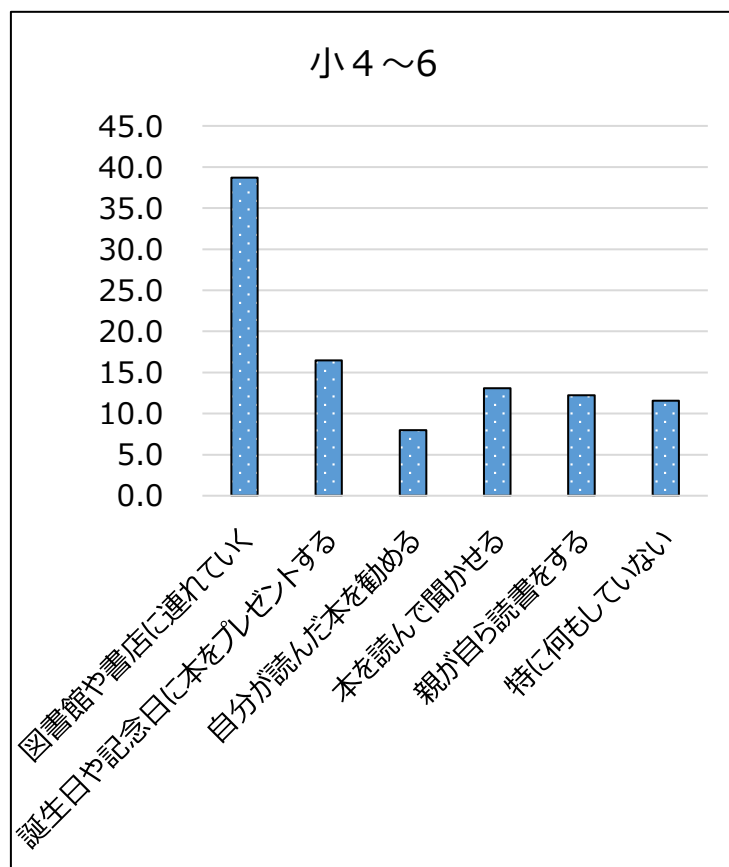
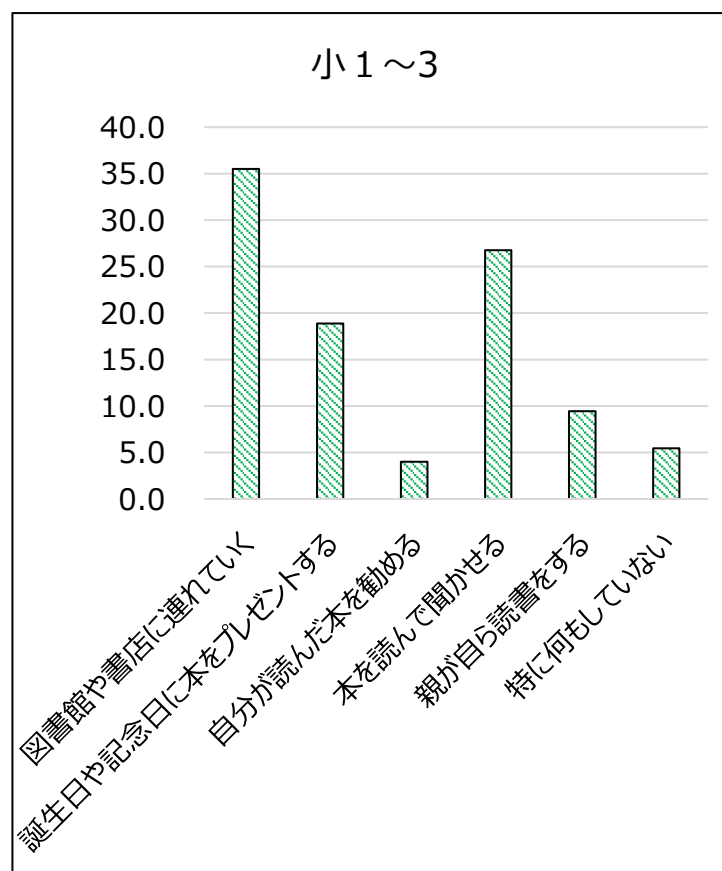
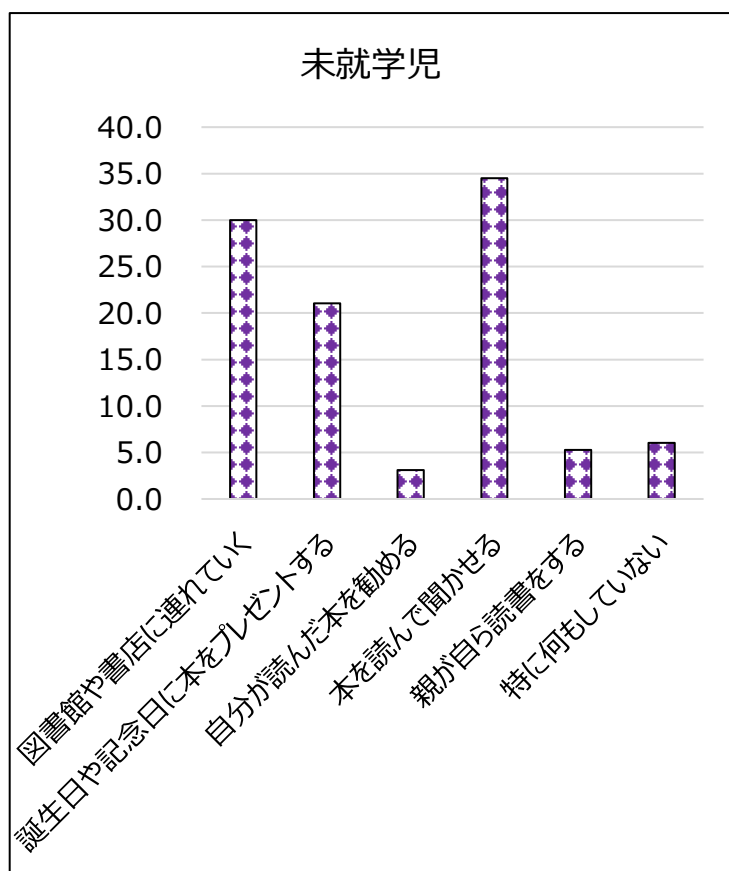


本の入手方法として、紙の本を購入または図書館で借りている。

● お子さんが読書をするようなきっかけづくりをしていますか。（３つまで選択可）【保護者】

(%)

	未就学児	小１～３	小４～６
図書館や書店に連れていく	30.0	35.5	38.7
誕生日や記念日に本をプレゼントする	21.0	18.9	16.5
自分が読んだ本を勧める	3.1	4.0	8.0
本を読んで聞かせる	34.5	26.7	13.1
親が自ら読書をする	5.3	9.4	12.2
特に何もしていない	6.0	5.4	11.6

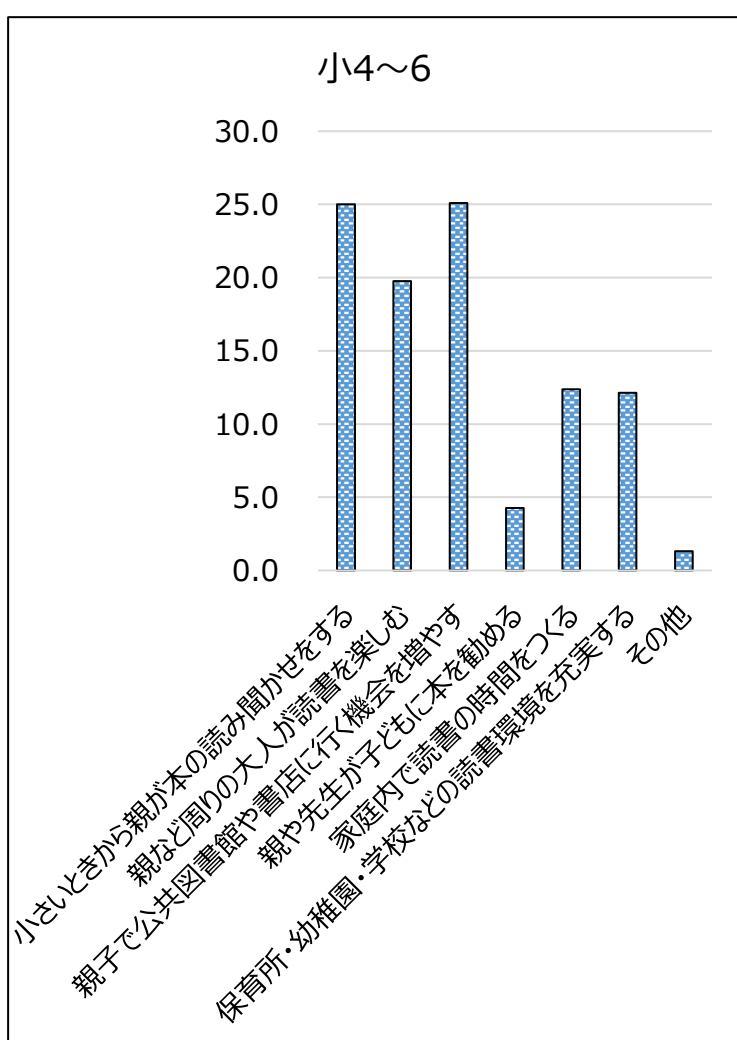
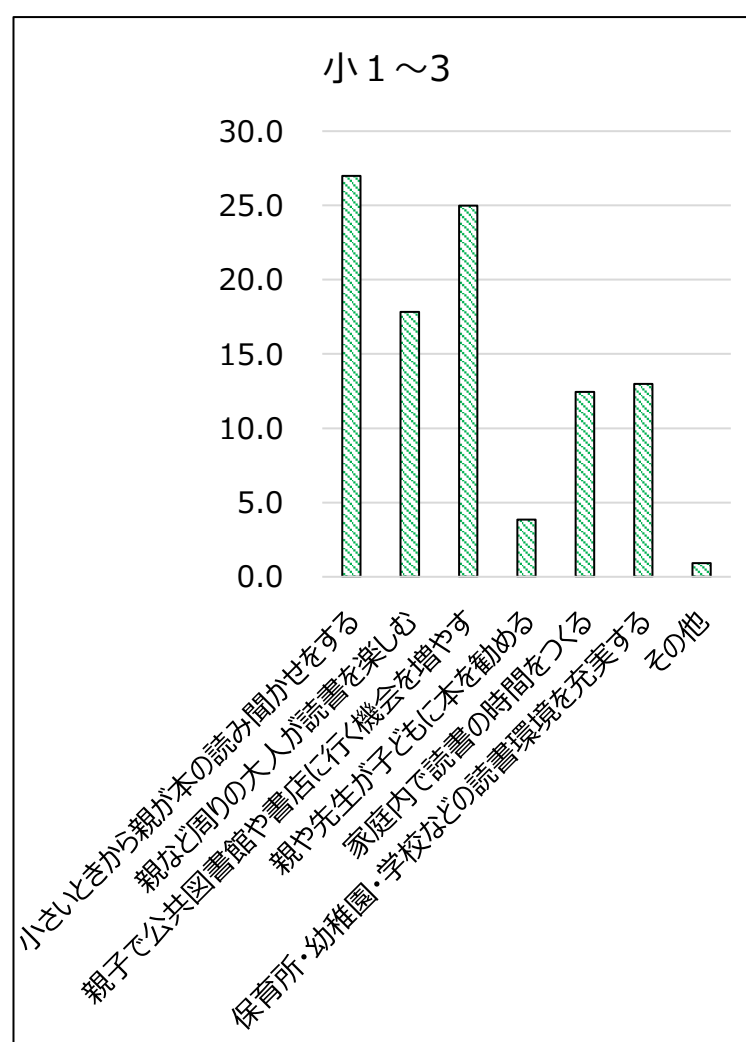
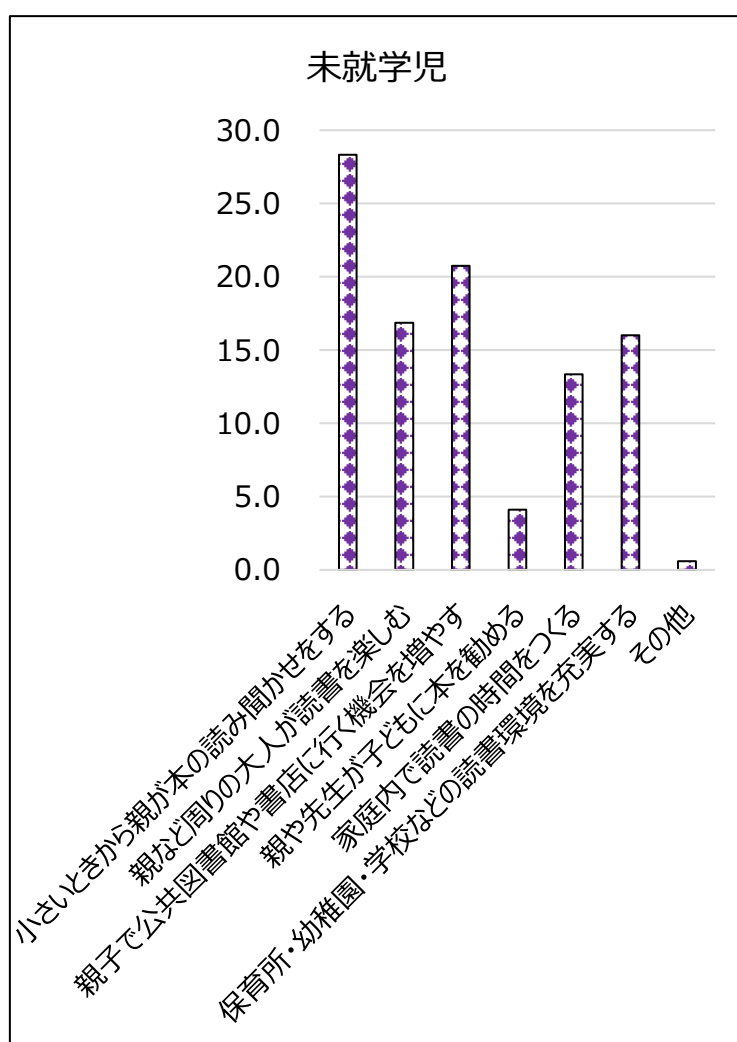


図書館や書店に連れて行ったり、本をプレゼントしたり、読み聞かせをしたりするなど、子どもが本に触れる機会をつつている。

- 子どもがもっと本を読むようになるためにはどうしたらよいと思いますか。（３つまで選択可）【保護者】

(%)

	未就学児	小１～３	小４～６
小さいときから親が本の読み聞かせをする	28.3	27.0	25.0
親など周りの大人が読書を楽しむ	16.9	17.8	19.8
親子で公共図書館や書店に行く機会を増やす	20.8	25.0	25.1
親や先生が子どもに本を勧める	4.1	3.8	4.3
家庭内で読書の時間をつくる	13.4	12.4	12.4
保育所・幼稚園・学校などの読書環境を充実する	16.0	13.0	12.1
その他	0.6	0.9	1.3

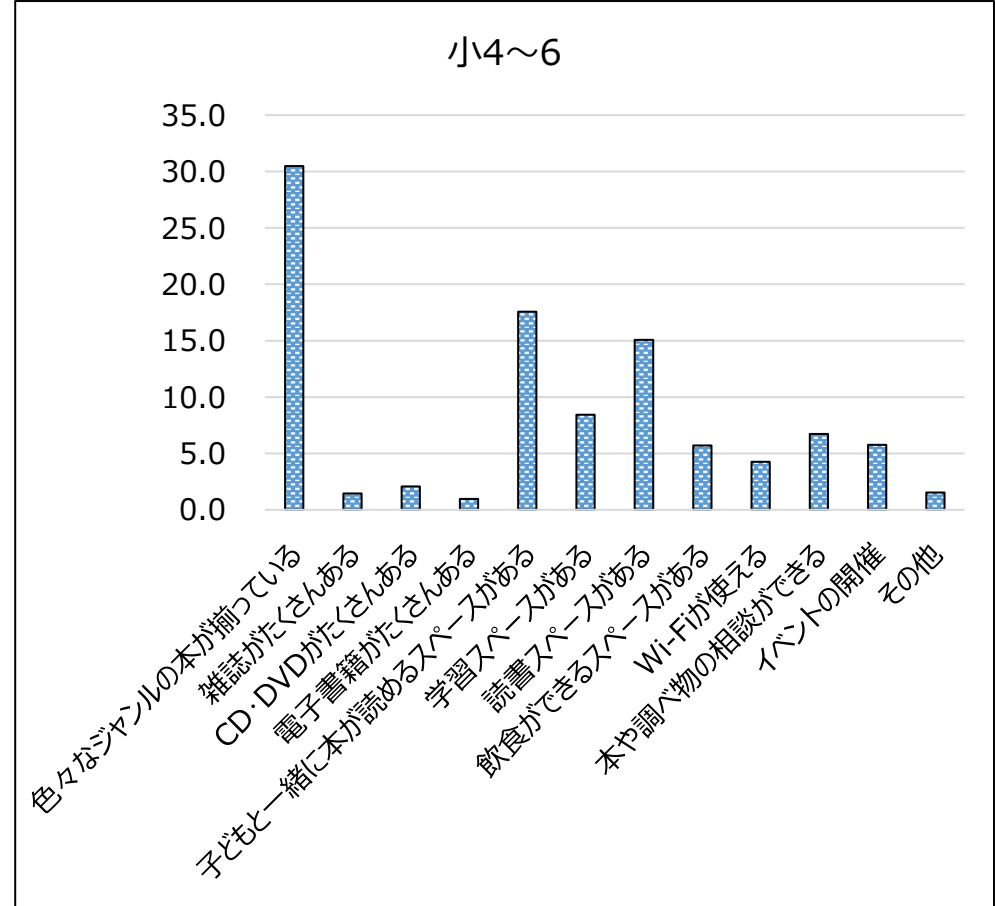
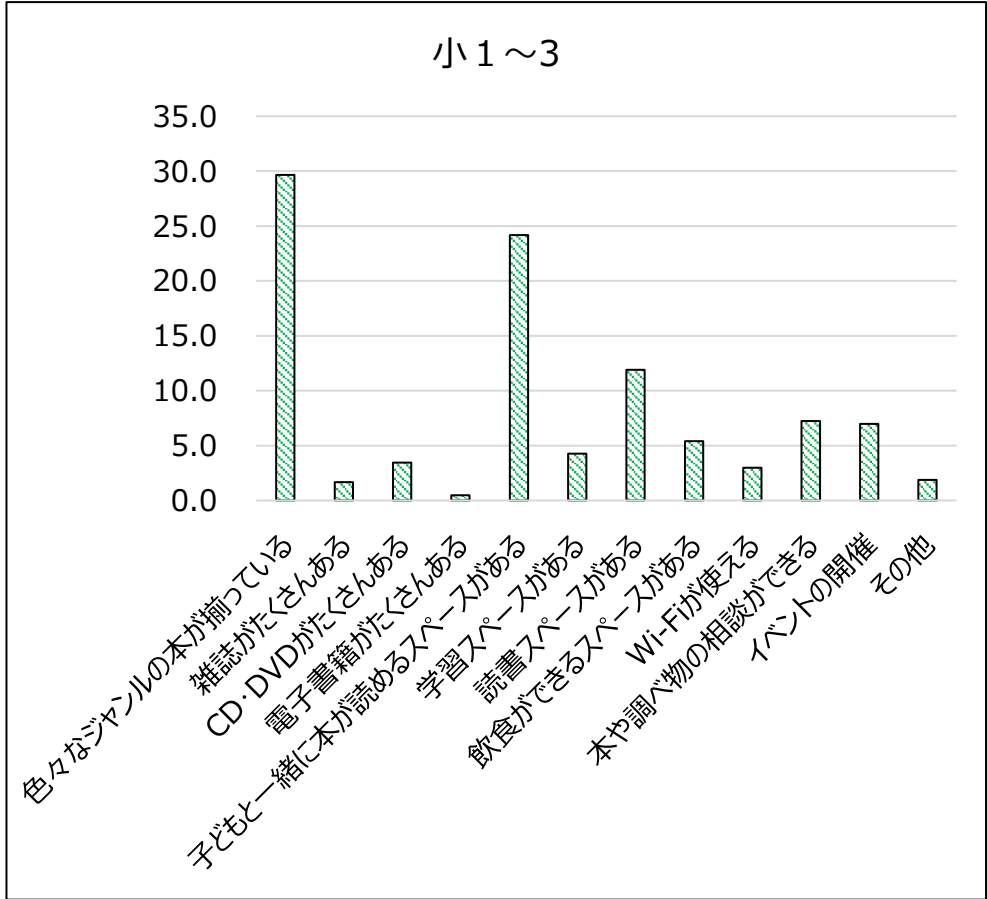
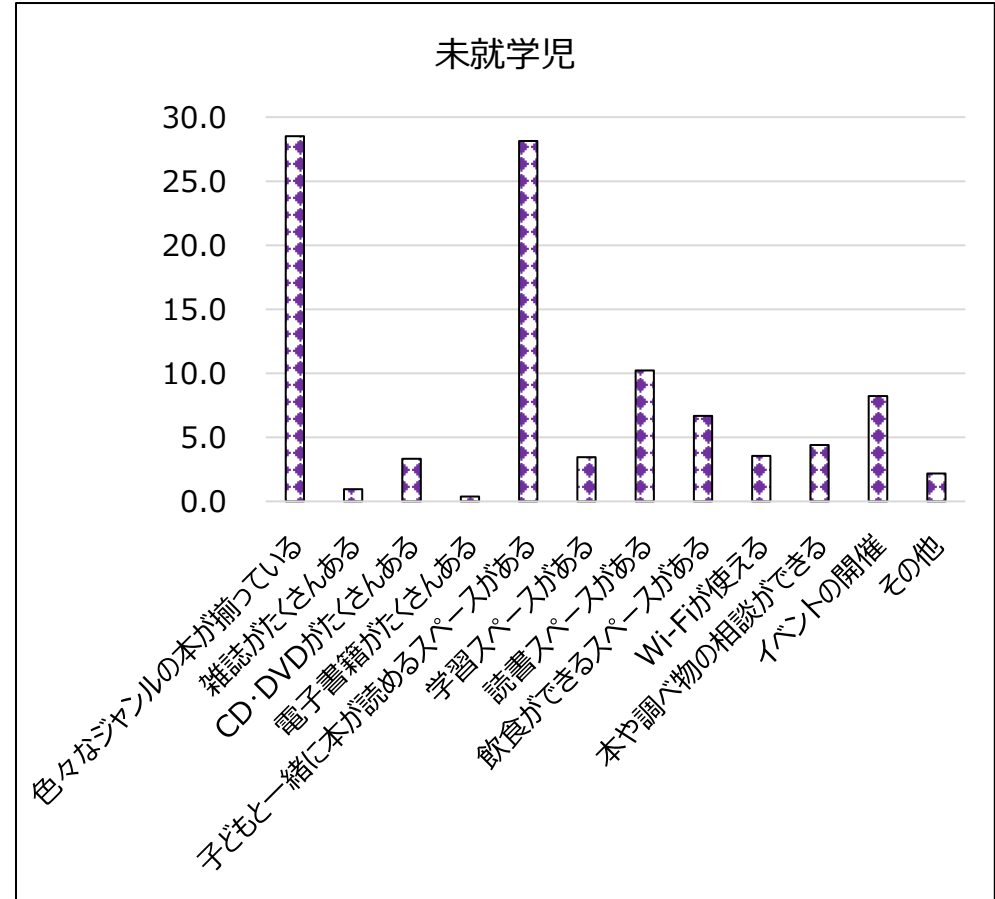


読み聞かせをすることや、図書館や書店に行くなど、小さいときから親が子どもに本に接する環境を積極的につくることが大切と考えている。

● 子どもの読書のために地域の図書館に望むことは何ですか。（３つまで選択可）【保護者】

(%)

	未就学児	小１～３	小４～６
色々なジャンルの本が揃っている	28.5	29.6	30.5
雑誌がたくさんある	0.9	1.7	1.4
CD・DVD がたくさんある	3.3	3.4	2.1
電子書籍がたくさんある	0.4	0.5	1.0
子どもと一緒に本が読めるスペースがある	28.1	24.2	17.6
学習スペースがある	3.4	4.3	8.4
読書スペースがある	10.2	11.9	15.1
飲食ができるスペースがある	6.7	5.4	5.7
Wi-Fi が使える	3.6	3.0	4.3
本や調べ物の相談ができる	4.4	7.2	6.7
イベントの開催	8.2	7.0	5.8
その他	2.2	1.9	1.5

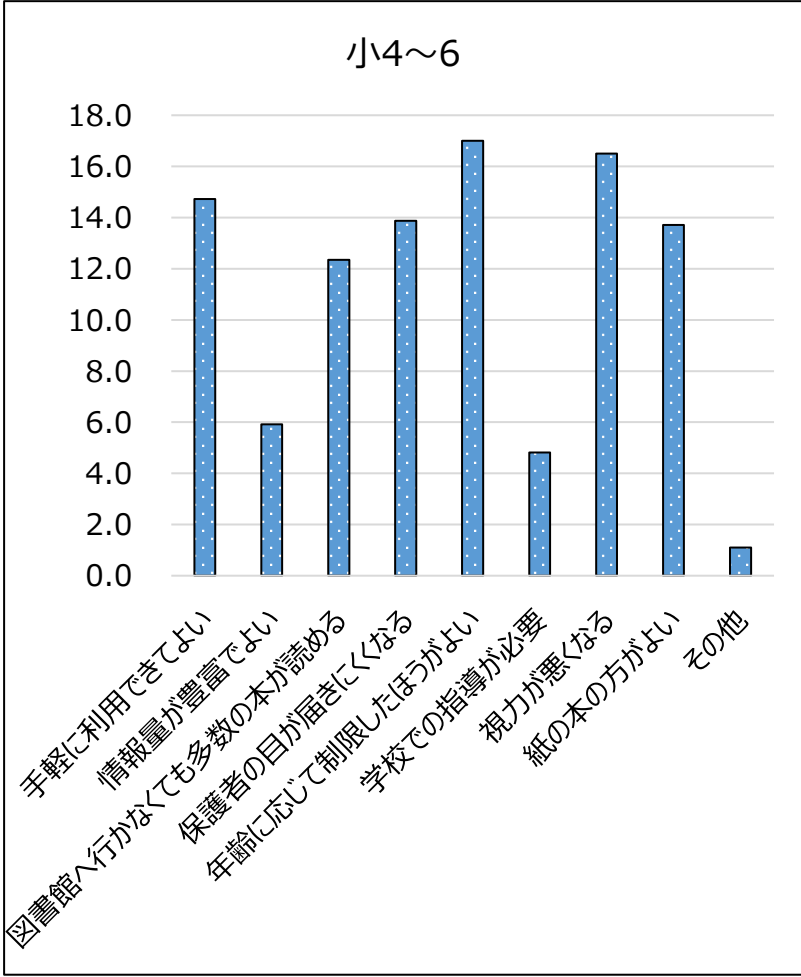
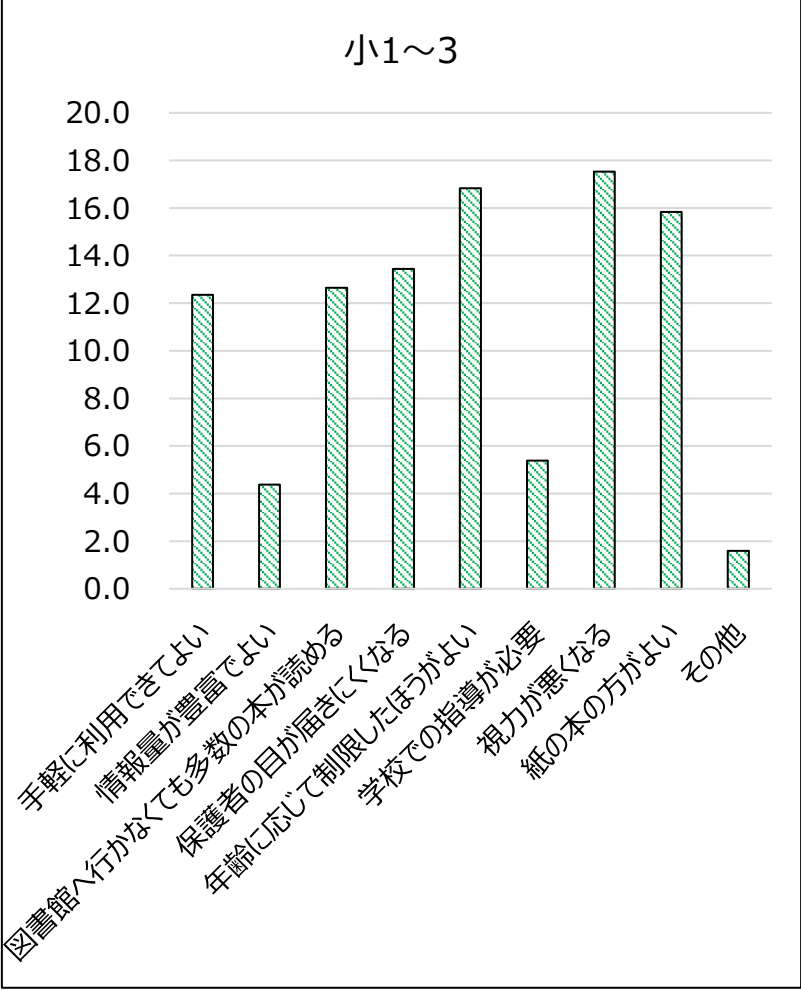
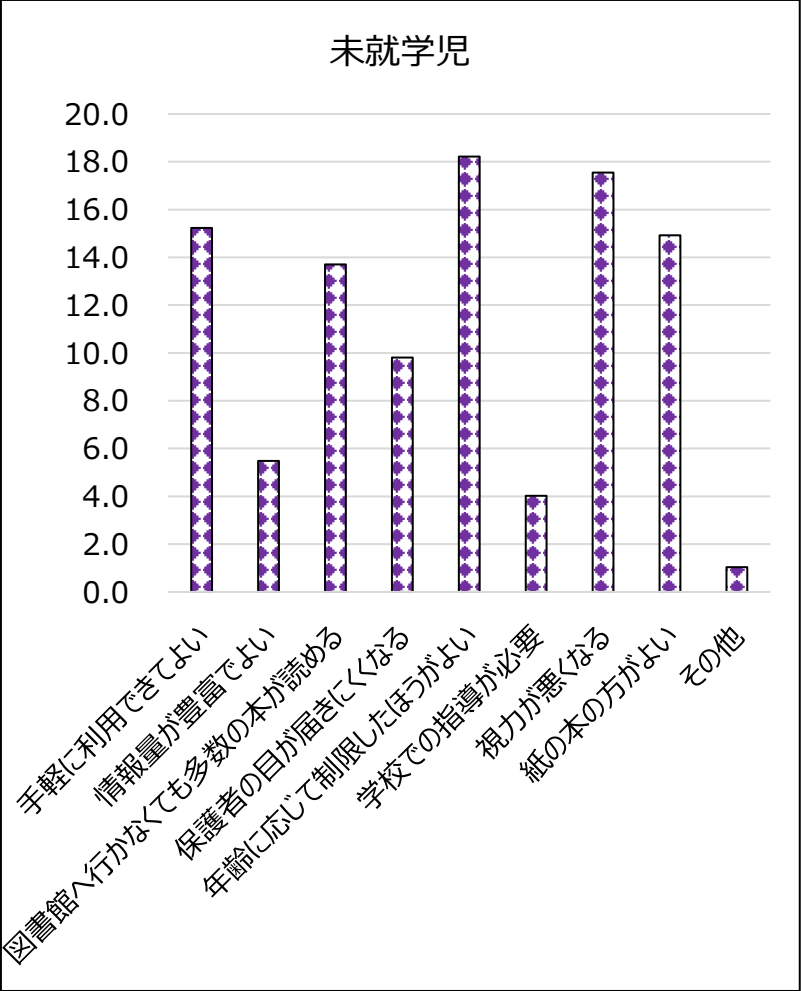


幅広い分野の本を豊富に揃えることや、親子が読書や会話を楽しめるスペースの設置が望まれている。

● 子どもが電子書籍を利用することについてどのように思いますか。（３つまで選択可）【保護者】

(%)

	未就学児	小１～３	小４～６
手軽に利用できてよい	15.2	12.4	14.7
情報量が豊富でよい	5.5	4.4	5.9
図書館へ行かなくても多数の本が読める	13.7	12.6	12.4
保護者の目が届きにくくなる	9.8	13.4	13.9
年齢に応じて制限したほうがよい	18.2	16.8	17.0
学校での指導が必要	4.0	5.4	4.8
視力が悪くなる	17.6	17.5	16.5
紙の本の方がよい	14.9	15.8	13.7
その他	1.0	1.6	1.1

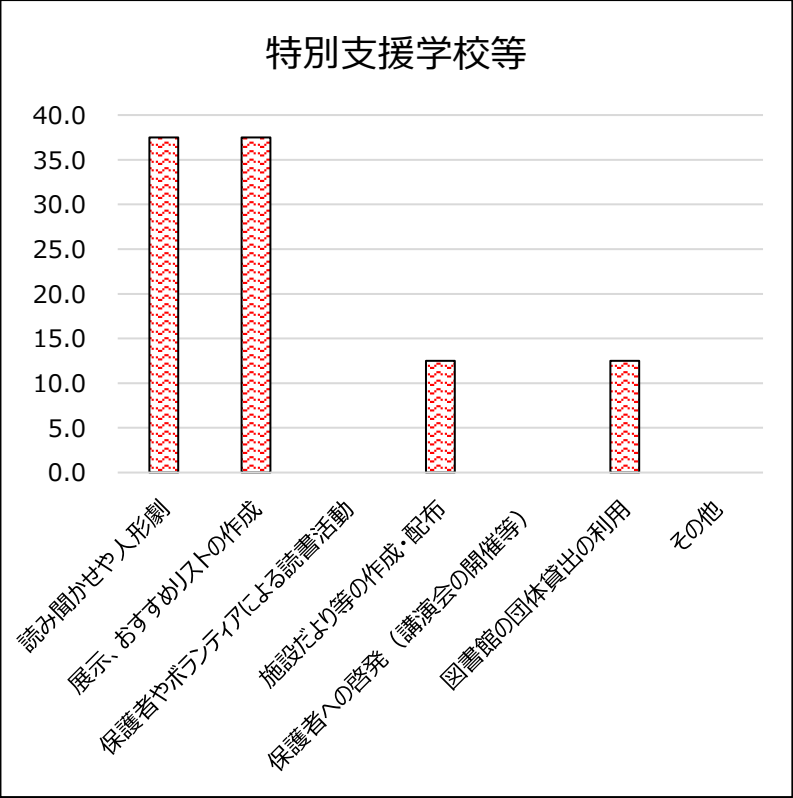
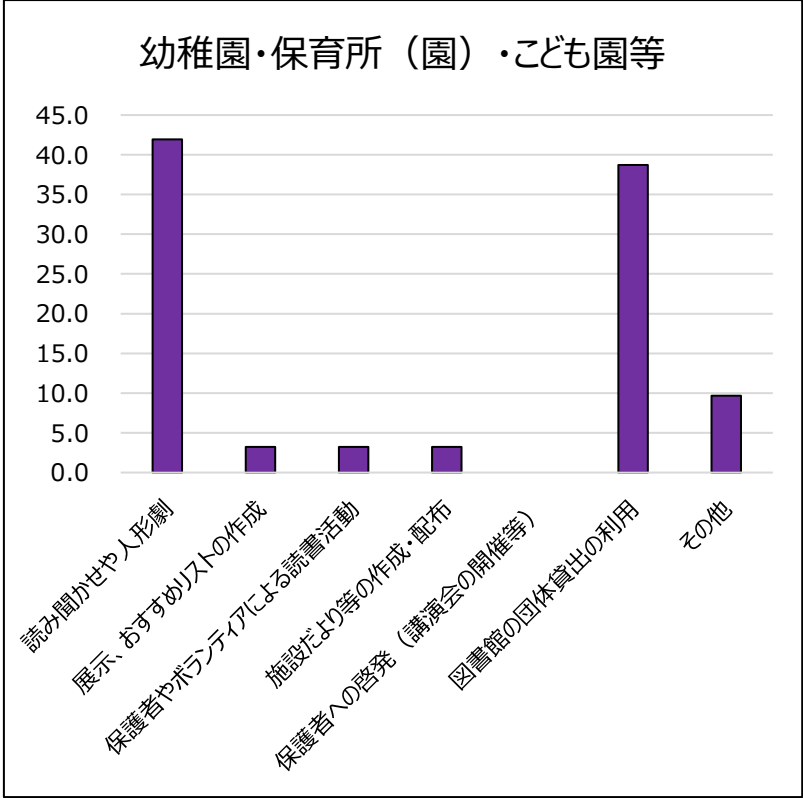


手軽に利用できる点が評価されているが、年齢に応じて制限した方がよいなど慎重な意見が多い。

● 子どもたちの読書への関心を高めるような活動を実施していますか（３つまで選択可）【施設】

(%)

	幼稚園・保育所 （園）・こども園等	特別支援学校等
読み聞かせや人形劇	41.9	37.5
展示、おすすめリストの作成	3.2	37.5
保護者やボランティアによる読書活動	3.2	0.0
施設だより等の作成・配布	3.2	12.5
保護者への啓発（講演会の開催等）	0.0	0.0
図書館の団体貸出の利用	38.7	12.5
その他	9.7	0.0

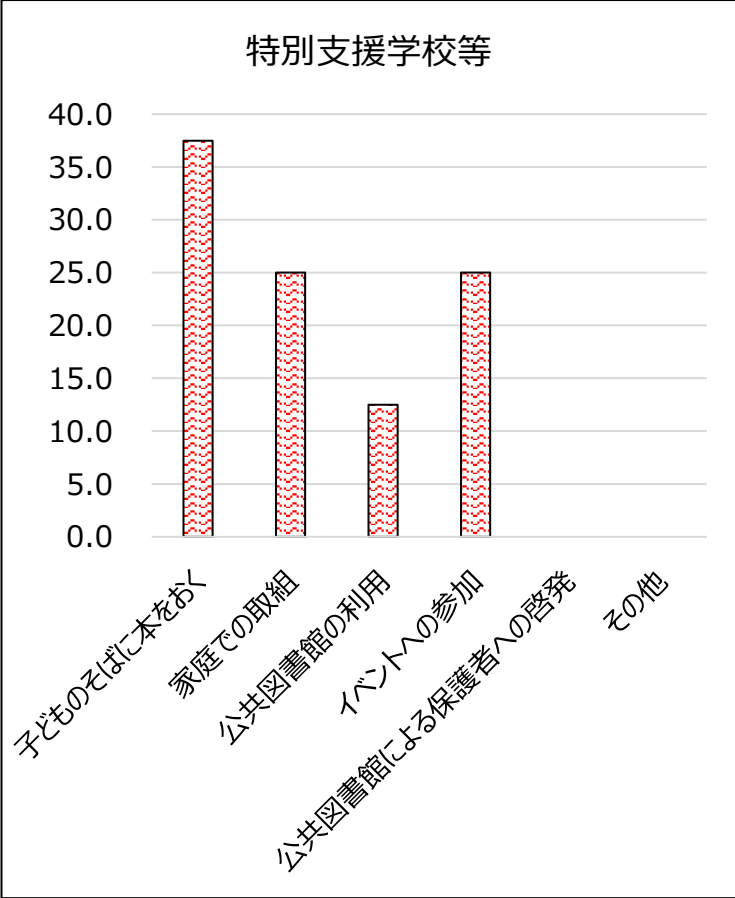
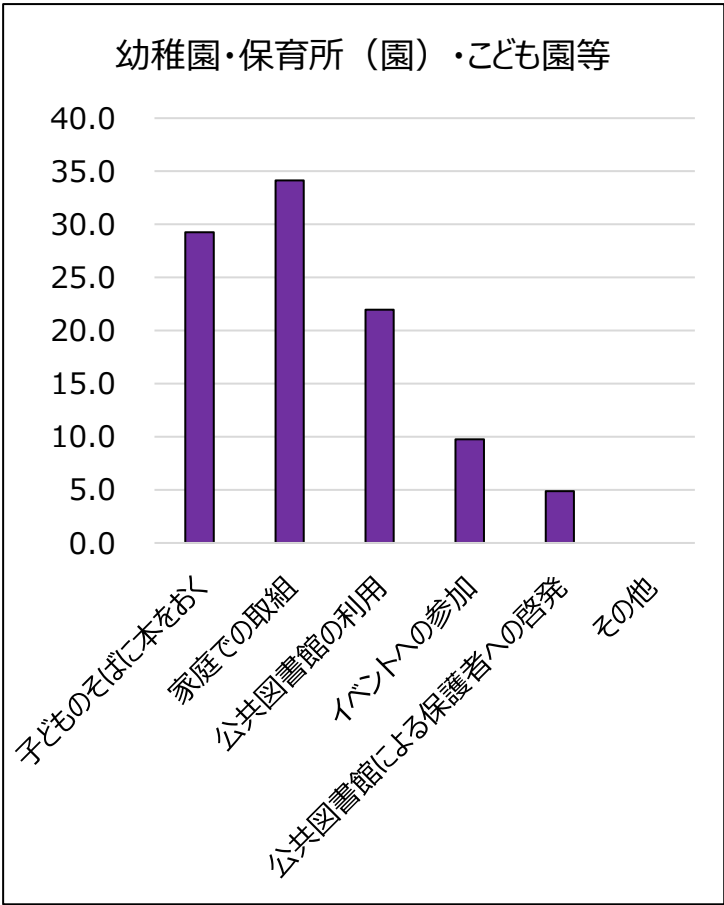


読み聞かせや人形劇などおはなし会活動に力を入れている。

● 子どもたちが本に親しむようになるには、2 の回答に加えて何が効果的だと思いますか（3 つまで選択可）【施設】

※ 「2 の回答」とは P. 31 の回答です。 (%)

	幼稚園・保育所 (園) ・こども園等	特別支援学校等
子どものそばに本をおく	29.3	37.5
家庭での取組 (読み聞かせ、親子で読書、読んだ本について親子で話すなど)	34.1	25.0
公共図書館の利用	22.0	12.5
イベントへの参加 (おはなし会、ビブリオバトル、アニメーションなど)	9.8	25.0
公共図書館による保護者への啓発	4.9	0.0
その他	0.0	0.0

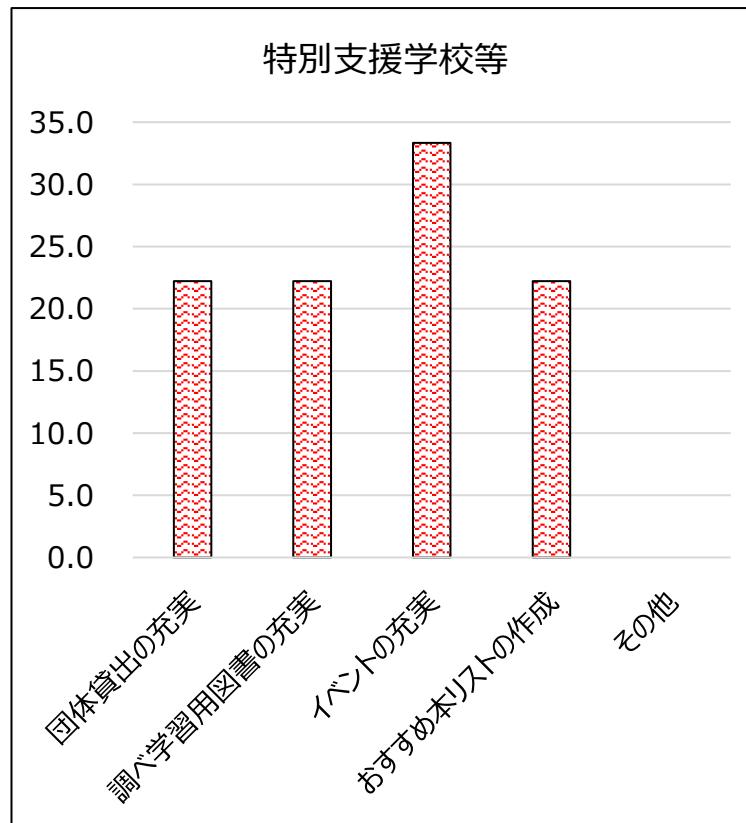
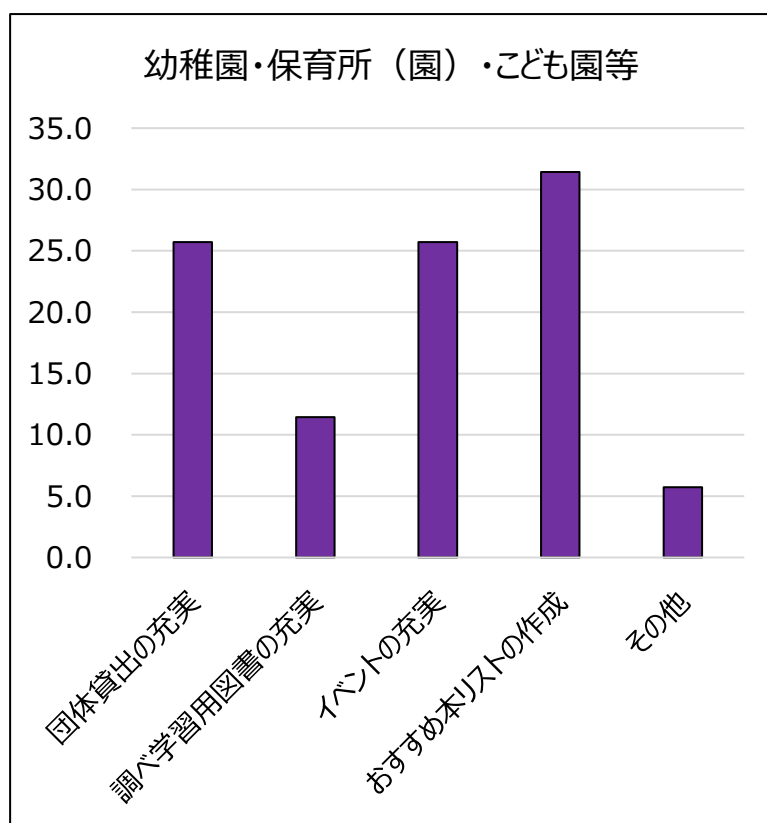


子どもがいつでも本に触れられる環境づくりや、家庭での取り組みが効果的と考えている。

● 公共図書館に望むことは何ですか。（３つまで選択可）【施設】

(%)

	幼稚園・保育所 (園)・こども園等	特別支援学校等
団体貸出の充実	25.7	22.2
調べ学習用図書の充実	11.4	22.2
イベントの充実	25.7	33.3
おすすめ本リストの作成	31.4	22.2
その他	5.7	0.0



団体貸出やイベントの充実、おすすめ本リストの作成が期待されている。

2 前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）策定委員会 委員名簿

計画策定委員

所 属 等	氏 名
共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授	天宮 陽子
JPIC 読書アドバイザー、絵本セラピスト	野村 陽子
前橋市読み聞かせグループ連絡協議会 会長	生方 由紀子
前橋市 P T A 連合会 家庭教育代表幹事 委員長	六本木 千絵
学校教育課 情報教育推進係 I C T 専門員	折田 一人
前橋市立荒子小学校図書館職員	近藤 真理子
図書館長	齋藤 明子

実務部会委員

所 属 等	氏 名
障害福祉課 障害政策係長	山本 卓哉
こども支援課 こども健診係長	樋口 真弓
こども施設課 施設指導係 保育担当係長	羽鳥 豊子
学校教育課 指導係 指導主事	藤村 学
学校教育課 教育研修係 指導主事	穴原 大輔
生涯学習課 社会教育係長	新保 正夫
教育支援課 幼児教育センター所長	池田 美代子
教育支援課 児童文化センター 教育担当係長	本川 義晴
図書館 こども図書館長	三木 恵美子



前橋市子ども読書活動推進計画（第四次）

発 行 令和7年3月
前橋市教育委員会事務局 図書館

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/library/index.html>

連絡先 前橋こども図書館
TEL 027-230-8833